

**沖縄県立芸術大学基本計画に基づく
年度計画(令和元年度)PDCA の実施状況について**

(令和2年11月30日)

自己点検・評価委員会

目次

1	沖縄県立芸術大学基本計画について	1
2	沖縄県立芸術大学基本計画に基づく「年度計画」について	1
3	年度計画のPDCAについて	1
4	内部質保証に係る組織体制	2
5	年度計画（令和元年度）における取組みの推進状況	3
(1)	「遅れ」の取組みについて	3
(2)	「未実施」の取組みについて	4
6	PDCA検証結果について	5
(1)	「学生収容定員の充足に関する取組」	5
(2)	「大学の内部質保証システムの構築」について	6
(3)	「教育の質の向上に関する取組」について	6
(4)	「国際交流の活性化に関する取組」について	7
(5)	「社会貢献・社会連携の充実強化に関する取組」について	8
(6)	「大学運営に関する取組」について	9
7	年度計画（令和2年度）のPDCA実施における留意点について	10
8	定員数、志願者数、在学生数の推移	11
(1)	美術工芸学部における総定員数、志願者数、在学生数の推移	11
(1)ー1	絵画専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	13
(1)ー2	彫刻専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	15
(1)ー3	芸術学専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	17
(1)ー4	デザイン専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	19
(1)ー5	工芸専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	21
(2)	音楽学部における総定員数、志願者数、在学生数の推移	23
(2)ー1	音楽表現専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	25
(2)ー2	音楽文化専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	27
(2)ー3	琉球芸能専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移	29

(3) 大学院修士課程 造形芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移	31
(4) 大学院修士課程 音楽芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移	32
(5) 大学院後期博士課程 芸術文化学研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移	33
9 IRの試み【修業年限期間内に卒業する学生の割合、中途退学者数、初年次退学者数】	34
10 IRの試み【18歳年齢人口の推移について】	36
11 県計画関連指標	37
12 関係資料	39
(1) 建学の理念	39
(2) 沖縄県立芸術大学（学部）3つのポリシー	39
(3) 沖縄県立芸術大学大学院3つのポリシー	45
(4) 平成25年度大学機関別認証評価関連	49
(5) 沖縄21世紀ビジョン基本計画【後期改訂版】（抄）	49
(6) 沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】（抄）	50
(7) 沖縄県立芸術大学基本計画	57

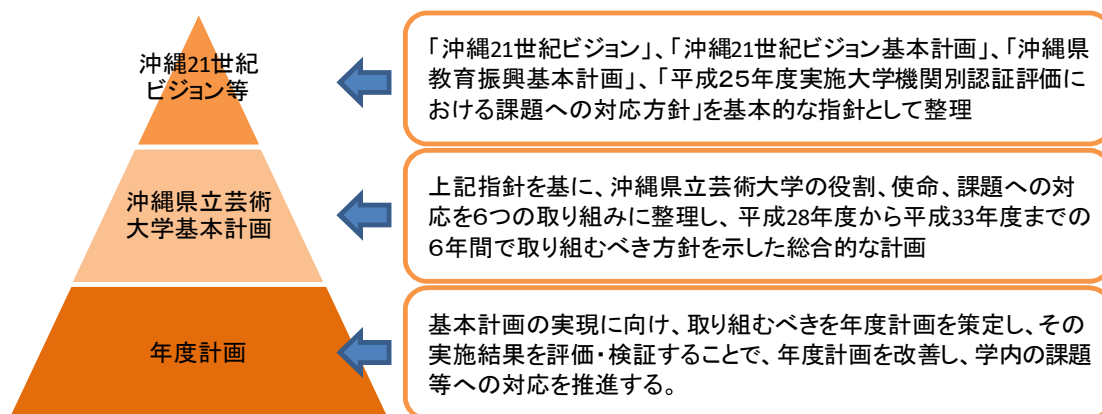
1 沖縄県立芸術大学基本計画について

沖縄県立芸術大学では、平成 28 年度から平成 33 年度を計画期間とした「沖縄県立芸術大学基本計画（以下「基本計画」という。）」を策定した。

基本計画は、少子化など大学を取り巻く社会環境の変化に対応していくため本学の建学の精神に立ち返り、あるべき姿、自らの将来像の実現に向け、「沖縄 21 世紀ビジョン」、「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」、「沖縄県教育振興基本計画」及び「平成 25 年度大学機関別認証評価」を踏まえ、本学の役割、使命、課題を明らかにしたものである。

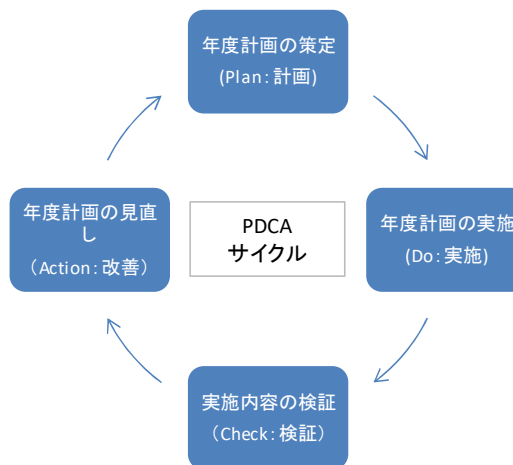
2 沖縄県立芸術大学基本計画に基づく「年度計画」について

基本計画に掲げた目標を具体化することにより、基本計画を着実に推進し、内部質保証を図るため、基本計画を推進する活動計画として「沖縄県立芸術大学年度計画」を毎年度策定している。また、年度途中の自己点検の中で、新たな課題が生じたときは適時年度計画に追加し、取組を行っている。



3 年度計画のPDCAについて

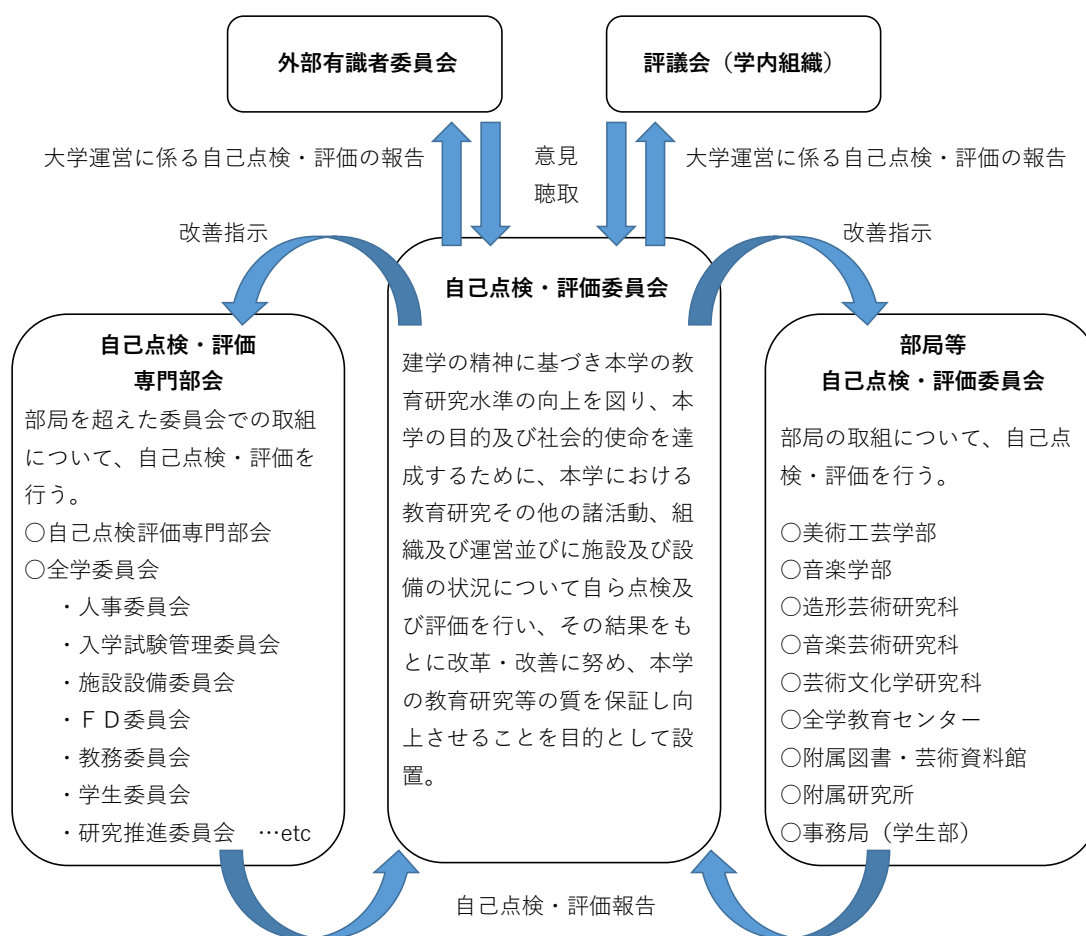
基本計画の着実な推進を図るため、各部署が年度計画で示した「取組内容」について、Plan(計画)、Do(実施)、Check(検証)、Action(改善)のいわゆるPDCAサイクルにより、毎年度、検証及び改善を継続的に行う。この結果を翌年度の年度計画に反映させることで、一時的な取組の評価にとどまらず、基本計画の効果的な推進へと繋げ、内部質保証を図る。



4 内部質保証に係る組織体制

本学の内部質保証に係る組織体制として、自己点検評価委員会を中心に、部局での取組を部局等自己点検・評価委員会、全学的な取組を自己点検・評価専門部会において年度計画に基づきPDCAサイクルによる検証を行い、その結果について外部有識者委員会及び評議会へ報告、意見をいただき、これを基に取組を推進し、質向上へ繋げることとしている。

沖縄県立芸術大学における内部質保証に係る組織体制について



5 年度計画(令和元年度)における取組の推進状況

基本計画に基づき策定された年度計画（令和元年度）では、各部局で 142 件の取組が実施され、その検証が行われた。

年度計画に係る取組において「順調」及び「やや遅れ」は 129 件となり、全体の 9 割程度となっていることから、年度計画として掲げた取組は前進している。

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	遅れ	未実施
142	109	20	11	2
	76.8%	14.1%	7.7%	1.4%

○推進状況の区分

「順調」：年度計画どおり又は前倒しで取組を推進している（概ね 80%以上）

「やや遅れ」：年度計画と比較して若干の遅れがある（概ね 60%以上～80%未満）

「遅れ」：年度計画と比較して遅れている（概ね 60%未満）

「未実施」：年度計画に示した活動が未実施

(1) 「遅れ」の取組について

年度計画に係る取組において「遅れ」は 11 件となっている。

○美術工芸学部 自己点検・評価委員会

- ・助手、教育補助及び技術専門員、TA に対しての業務マニュアルを組織的に検証・検討・作成する。

○音楽学部自己点検・評価委員会及び教務学生委員会

- ・2018 年度実施の、卒業時の学生に対するアンケート調査結果を分析し、学部の目的及び学位授与方針に則した学生の学習成果を検証する。
- ・大学及び学部の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているかを検証するために、2019 年度卒業・修了時の学生からの意見聴取を行う。（回収率低調）
- ・大学及び学部の学位授与方針を検証する。

○音楽芸術研究科自己点検・評価委員会及び研究科運営委員会

- ・2018 年度実施の、修了時の学生に対するアンケート調査結果を分析し、研究科の目的及び学位授与方針に則した学生の学習成果を検証する。
- ・研究科の学位授与方針を検証する。

○附属図書・芸術資料館

- ・附属図書・芸術資料館に必要な ICT 環境を整備するための検討を行う。

○大学教務委員会

- ・大学（学士）の学位授与方針を検証する。

○事務局 教務学生課

- ・就職キャリア支援事業の職場体験メニューを通じて、クリエイティブな企業へのイ

ンターシップの構築に取り組む。

- ・沖縄県大学就職研究会や、うりずん+インターシップ協議会との連携を強化し、本学学生のインターシップ参加を推進する。
- ・教員が有する業績について、教員総覧（広報委員会 HP 部会）、年度研究活動報告書（研究推進委員会）など複数提出する必要があるため、作業効率化のための方策を検討する。

(2) 「未実施」の取組について

年度計画に係る取組において「未実施」は2件となっている。

○音楽学部音楽表現専攻

- ・演奏家など卒業後を見据えた人材育成に資する芸術専門分野のキャリア教育について、学部として組織的に取り組む体制を構築する。

○事務局教務学生課

- ・任期制の職員や、非常勤職員に対しての業務マニュアル等を整理する。

6 PDCA検証結果について

基本計画の項目毎に取組内容(Plan)を分類し、取組の状況(Do)を確認し、推進上の留意点などの内部要因、社会経済情勢の変化などの外部環境、事業スキームなどの改善余地を検証(Check)した上で、これらに対する改善案(Action)を検討した。

基本計画の大項目毎の検証結果は次のとおりとなっている。

(1) 「学生収容定員の充足に関する取組」

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	遅れ	未実施
30	28	2	0	0
	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%

① 特色ある取組について

- 各地進学相談会・入試説明会 34 箇所にて教員派遣及び資料参加、高校への個別訪問、専攻等案内資料の作成・配布、サマースクールにおける受験生対応の強化等、昨年度当初から組織的に具体策を講じた。例えば、美術工芸学部絵画専攻においては、進学志願者増進のための取組として、専攻教員が県内 19 校を訪問し、高校教員との連携を図る体制作りを行った。

② 課題、対策等について

- 令和2年度入試の美術工芸学部全体の平均志願倍率は3.1倍（令和元年度は2.5倍）となっている。すべての専攻のうち、工芸専攻の倍率は2倍を切っているが、昨年度の1.4倍から1.8倍へと増やしている。また、美術工芸学部の全ての専攻で定員を充足しており、令和2年度入学定員充足率（超過率）は112.3%、学部全体の収容定員充足率（超過率）は112.3%である。組織的取組は有効であったと判断できるが、本学教育の特色と獲得できる能力等の情報について、受験生及びステークホルダーに向けて継続的に発信していく必要がある。
- 令和2年度の音楽学部全体の志願倍率は2.1倍であり、音楽文化専攻の倍率は1.6倍（R1-0.7倍、H30-1.0倍、H29-1.0倍、H28-2.3倍）と回復傾向にある。また、音楽学部全体では定員を満たしているものの、琉球芸能専攻においては定員割れが生じており（充足率90%）、志願倍率も1.2倍と昨年度の2.1倍から下げていることから、現状を検証し具体的対策を早急に講ずる必要がある。学部全体の令和2年度入学定員充足率（超過率）は112.5%、学部全体の収容定員充足率（超過率）は108%である。

(2) 「大学の内部質保証システムの構築」について

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	遅れ	未実施
8	7	1	0	0
	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%

① 特色ある取組について

- ・大学、学部及び研究科の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているかを検証するために、卒業、修了時の学生アンケート調査を行った。今後調査結果を分析し、学習成果及び大学、学部及び研究科の学位授与方針の検証を行う。

② 遅れ・未実施となった取組について

- ・昨年度の音楽学部及び音楽芸術研究科での当該取組が不十分であった反省から、令和元年度は実施したものの回収率が低調であった。学習成果の確認と学位授与方針の検証のための重要な情報であることから改善の方策を検討する必要がある。

③ 課題とその対策について

- ・令和2年度は、認証評価機関による評価を受審中である。令和3年4月の法人化直前の認証評価でもあり、今後その指摘も踏まえつつ、教学IR機能の充実を図り、大学の質の向上に繋げる体制整備を検討する必要がある。

(3) 「教育の質の向上に関する取組」について

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	遅れ	未実施
60	36	14	9	1
	60.0%	23.3%	15.0%	1.7%

① 特色ある取組について

- ・音楽学部琉球芸能専攻と附属研究所においては、しまくとうば実践教育プログラムの開発、講演会等を実施しており、令和元年度は、琉球芸能専攻の3つの実技科目（前期・後期計30コマ）に「しまくとうば」の特別講師を招き、所作や歌唱法などを「しまくとうば」を用いて授業を行った。
- ・全学教育センターにおいては、初年次教育科目の開発を行い、平成31年度（令和元年度）から、初年次教育科目として「初年次セミナー」を開講した。
- ・音楽学部音楽表現専攻において、ソルフェージュ等の基礎教育に関して、カリキュラム改善やクラス分け・時間割等で適正化を図っている。単年度の成果のみで検証することは適切ではないことから、今後も継続して組織再編、カリキュラムの変更の検証・改善の取組が必要である。

- ・美術工芸学部及び大学院造形芸術研究科の実技系専攻、専修においては、芸術分野のキャリア教育に資するため、特論等の専門科目において非常勤講師として多様な人材を招聘している。教育研究上の目的に沿って、学生のキャリア形成、就業意識の動向を踏まえつつ、専攻等の専門教育の中で可能な限り芸術と周辺分野の多方面の専門家を講師として任用するほか、登録科目以外の授業を任意に聴講できるなど配慮しており、学生の授業評価は概ね良好である。
 - ・大学施設整備委員会において、法人化後に備えて保有を検討すべき土地の整理を行い、令和元年度に筆界未定地の解消のため専門機関へ委託し、筆界未定区域は解消された。
- ② 遅れ・未実施となった取組について
- ・音楽学部音楽表現専攻において、芸術専門分野のキャリア教育に係る体制構築を計画したが、専攻内にとどまり組織的な取組にまで至らなかった。
- ③ 課題とその対策について
- ・開学から34年を経過し、設備等の老朽化が目立っており、施設管理の外注による人員の増や、突発的な緊急修繕に対応するための予算措置が必要である。引き続き沖縄県総務部行政管理課及び財政課に対し適切な説明を行い、人員や予算の確保に努める必要がある。
 - ・芸術専門分野のキャリア教育については、全学教育センターにおいても「キャリアデザインⅡまたはB」などにおいて構想していることから、今後早期に全学的に検討することとする。

(4) 「国際交流の活性化に関する取組」について

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	遅れ	未実施
13	12	1	0	0
	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%

- ① 特色ある取組について
- ・大学国際交流委員会において、姉妹校協定締結に向けた景德鎮陶磁大学（中国）視察を実施し、教員が杭州中国美術学院で開催されたアジア現代陶芸交際交流展に参加した。
 - ・絵画専攻が国際芸術系大学連携「2019 版と言葉一版画集による国際交流」及びインドネシア芸術大学デンパサール校教員等を交えた「ドローイングコミュニケーション 2019」を、彫刻専攻がアジア芸術系大学国際交流展「彫刻の五七五-HAIKU Sculpture 2019」及び「アジア芸術系大学間 教育交流シンポジウム」を、琉球芸能専攻が「国立臺灣藝術大學音楽學院中國音楽學系 絲竹楽団演奏会」を、それぞれ

れ本学において開催し、各専門分野の共同研究と交流を推進した。

② 課題とその対策について

- ・姉妹校等と連携した取組において、実施専攻等における相手方との調整は綿密にできているが、それらを国際交流委員会において一元的に把握し、また組織横断的に広報する体制が不十分であることから、その対応を検討する必要がある。

(5) 「社会貢献・社会連携の充実強化に関する取組」について

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	遅れ	未実施
11	10	1	0	0
	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%

① 特色ある取組について

- ・大学主催により、「組踊上演 300 周年記念 組踊・琉球舞踊公演」を県内 5 会場において開催した。また、附属研究所により「沖縄芸術の科学-琉球芸能・組踊特集号」を刊行した。その執筆者は現在の沖縄・琉球芸能研究をリードする研究者であり、琉球芸能研究に寄与する紀要となった。
- ・美術工芸学部彫刻専攻において、名護市豊原区文化事業に協力し、学生の野外作品展を中心、地域社会への教育成果の還元を図った。平成 30 年度から豊原区制 70 周年記念事業として名護市同地区主催の特別文化事業に、学生、教員、卒業生の彫刻作品計 9 点を約 1 年間展示した。学生の社会性の涵養が図られている。また、豊原区は本事業実施の道路を「アート通り」と名付け、道路標識を設置している。
- ・造形芸術研究科比較芸術学専攻において、教養講座「アート・レクチャー」を 3 講座開催し、来場者の満足度も高く、今後継続する予定である。
- ・音楽学部音楽表現専攻において、積極的に地域貢献活動を実施することにより、県立芸術大学の教育研究成果を地域に還元し、学生が社会と連携する機会を創出するための取組を行った。出前コンサート、奏楽堂等での各種演奏会、定期公演、定期演奏会、奏楽堂演奏会などを通じ、本学の教育研究成果を発表し、地域に還元している。また、教員が県内各種コンクール等の審査員を務める機会も多く、地域社会と連携し貢献している。
- ・全学教育センターにおいて、本学教員による全 4 回の「おきげい教養講座」を実施し 73 名の参加者があった。おきなわ県民カレッジ連携講座や那覇市生涯学習メニューとしても提供開講しており、本学教員による社会貢献活動であり、大学にとっても広報効果があるものと思われる。講座によって参加人数にばらつきが見られたことから、広報方法の改善による告知の徹底が求められる。
- ・附属研究所において、移動大学、文化講座・公開講座の実施により、県民に対し教

育研究成果の還元を図った。(文化講座・公開講座の参加者は延べ1,550名の参加者) 移動大学は、伊江中学校において、伊江島の小中学生を対象に、令和元年10月26日及び27日に全12講座が開催され、本学教職員・学生、総勢37名のスタッフでプログラムの指導、運営を行った。また、関連事業として、村内の農村環境改善センターにおいて琉球芸能公演を開催した。(参加者56名)

② 課題とその対策について

- ・社会貢献・社会連携に関する問い合わせは多いが、教職員及び学生で対応出来る規模、回数に限界もあることから、教育研究活動に影響がでないよう適切に対応する必要がある。

(6) 「大学運営に関する取組」について

取組み数	進捗状況			
	順調	やや遅れ	遅れ	未実施
20	16	1	2	1
	80.0%	5.0%	10.0%	5.0%

① 特色ある取組について

- ・事務局総務課において、名城大学及び県立看護大学との連携協定に基づきSD研修会を、令和元年度は名城大学本学で実施した。研修会の定着により、事務局間のネットワーク拡大が図られ、県内の公立大学間の連携体制の深化が図られている。
- ・SD推進委員会において、SD研修計画を策定し、計画に沿った研修会を開催するほか、その検証を行っている。SD研修計画に沿って「ハラスメント研修会」を開催したほか、アンケート結果などにより、SD研修会の検証を行った。常勤の教職員に占める参加割合は大幅に改善された。(H1:82.4%、H30:54.5%、H29:33.6%)

② 遅れ・未実施となった取組について

- ・事務局教務学生課において、非常勤職員の引継書等を基にマニュアル等を作成、整理する計画であったが、平成元年度は非常勤職員及び担当職員がほぼ全員、異動又は未採用だったことから、業務の把握・遂行に終始したため、マニュアル等の作成、整理にまで至らなかった。
- ・美術工芸学部の助手、教育補助及び技術専門員、TAの業務マニュアルについて、3専攻のマニュアル、業務日誌等を確認したが、専門分野ごとの業務が違うため、統一的なマニュアル作成には至っていない。
- ・教育情報の公表に係る教員業績情報の収集について、現行では広報委員会(教員総覧)、研究推進委員会(年度研究活動報告書)、自己点検・評価委員会及び総務課(人事評価)などに提出しており、作業効率化のための方策を検討する必要があるが、依然として重複情報の提出が解消されていない。

③ 課題とその対策について

- ・大学が行う業務が複雑化・多様化する中、大学運営の一層の改善に向けては、職員の異動、配置替え等に備え、特に各非常勤職員の引継書を基に、業務上気づいた点や手順等を新規職員が追記しながらマニュアル叩き台を作成し、その都度、常勤担当者で確認、補足し、年度末を目処にマニュアルを作成する。
- ・各専攻、分野ごとの業務がかなり違い、統一的なマニュアル作成は困難なため、記載すべき項目のみ列挙し、それぞれの独自性に配慮したマニュアルを各専攻等で作成し、学部自己点検評価委員会で組織的に把握、共有するのが適当である。
- ・教員が有する業績情報については、目的に応じた抽出が可能なデータベース化を図る。

7 年度計画(令和2年度)のPDCA実施における留意点について

過去の年度計画PDCAの実施状況を踏まえ、令和2年度の年度計画検証を行う際は、下記に留意して実施すること。

(1) 年度計画への明記

原則として、基本計画に沿った取組について、学部（各種委員会等を含む）、専攻等の組織単位の年度計画としてそれぞれ個票を作成し、実施、検証・評価を行うこと。

(2) 改善事項の次年度計画への反映

推進状況が「順調」であっても、取組の検証（振り返り）を行い、改善が必要な事項を可能な限り明記し、翌年度の取組へ反映すること。

(2) 取組の「見える化」によるノウハウの蓄積

取組ごとに個票を作成することにより、取組の内容、振り返りによる反省・改善点などが蓄積され、他専攻等で類似の取組を実施する際に参考にできる。また、個票提出期限直前に記載すると、必要な情報が抜け落ちる可能性もあることから、取組の実施完了後に速やかに検証し、適宜記載を行うこと。

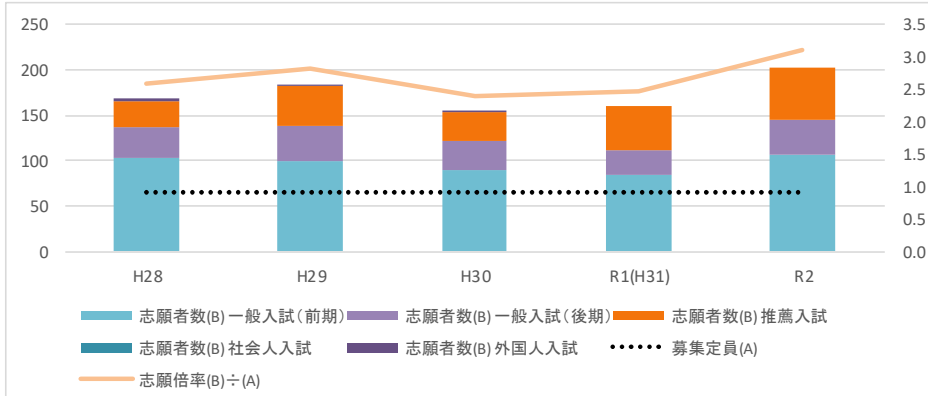
8 定員数、志願者数、在学生数の推移

(1) 美術工芸学部における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎美術工芸学部 分析シート(学生充足関係)

○美術工芸学部 募集定員及び志願者数の推移

	H28	H29	H30	R1(H31)	R2
募集定員(A)	65	65	65	65	65
一般入試(前期)	46	45	45	45	45
一般入試(後期)	7	6	6	6	6
推薦入試	12	14	14	14	14
社会人入試	0	0	0	0	0
外国人入試	0	0	0	0	0
志願者数(B)	168	184	156	160	202
一般入試(前期)	103	100	89	85	107
一般入試(後期)	34	39	32	26	38
推薦入試	28	44	32	49	57
社会人入試	0	0	0	0	0
外国人入試	3	1	3	0	0
志願倍率(B)÷(A)	2.6	2.8	2.4	2.5	3.1

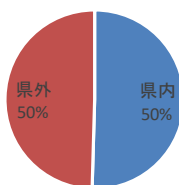


○美術工芸学部 R2一般入試志願者数の傾向

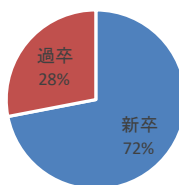
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	54	53	77	30	24	83
一般入試(後期)	14	24	25	13	10	28

◇一般入試(前期)

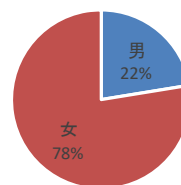
県内・県外比



新卒・過卒比

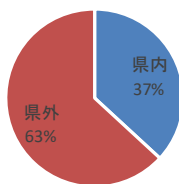


男女比

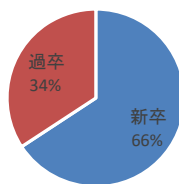


◇一般入試(後期)

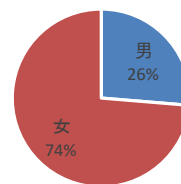
県内・県外比



新卒・過卒比

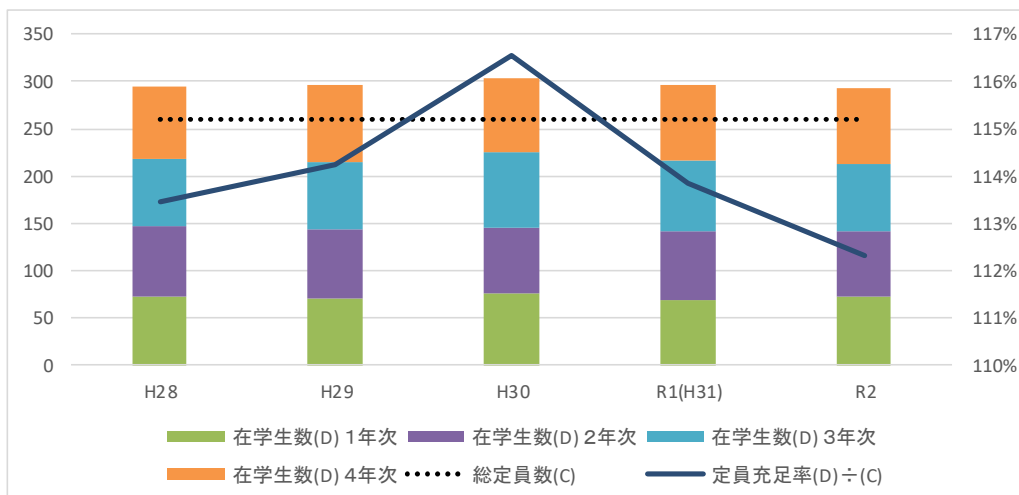


男女比



○美術工芸学部 総定員数及び在学生数の推移

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	260	260	260	260	260
在学生数 (D)	295	297	303	296	292
1年次	72	71	76	69	73
2年次	75	72	69	73	68
3年次	72	72	80	75	72
4年次	76	82	78	79	79
定員充足率 (D) ÷ (C)	113%	114%	117%	114%	112%

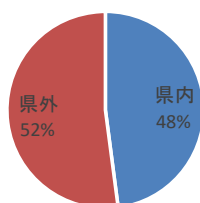


○美術工芸学部 R2在学生の比率

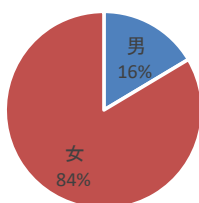
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	35	38	12	61
2年次	39	29	12	56
3年次	37	35	19	53
4年次	47	32	25	54

◇ 1年次

県内・県外比

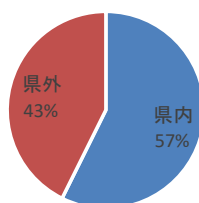


男女比

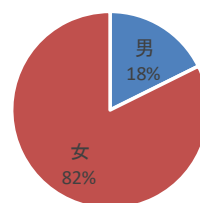


◇ 2年次

県内・県外比

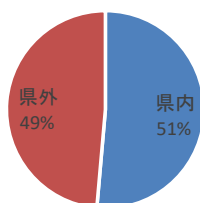


男女比

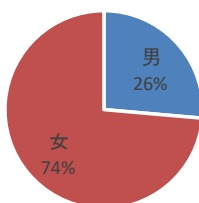


◇ 3年次

県内・県外比

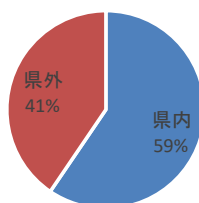


男女比

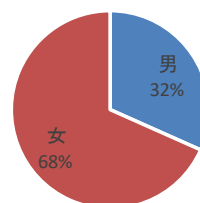


◇ 4年次

県内・県外比



男女比

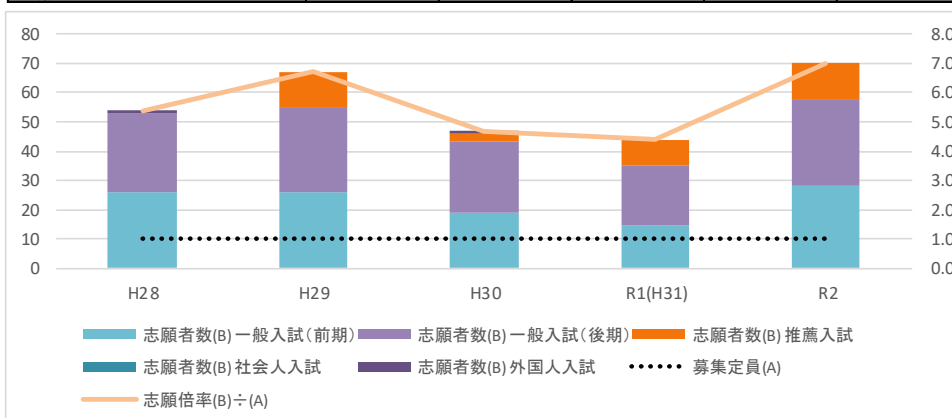


(1) - 1 絵画専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎美術工芸学部 絵画専攻分析シート（学生充足関係）

○絵画専攻 募集定員及び志願者数の推移

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)	10	10	10	10	10
一般入試（前期）	5	4	4	4	4
一般入試（後期）	5	4	4	4	4
推薦入試	—	2	2	2	2
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	若干名	—	若干名	若干名	若干名
志願者数(B)	54	67	47	44	70
一般入試（前期）	26	26	19	15	28
一般入試（後期）	27	29	24	20	30
推薦入試	—	12	3	9	12
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	1	—	1	0	0
志願倍率(B)÷(A)	5.4	6.7	4.7	4.4	7.0

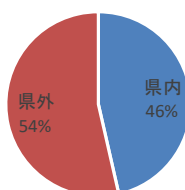


○絵画専攻 R2一般入試志願者数の傾向

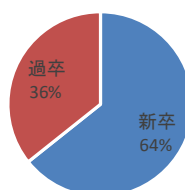
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試（前期）	13	15	18	10	8	20
一般入試（後期）	13	17	19	11	9	21

◇一般入試（前期）

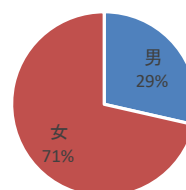
県内・県外比



新卒・過卒比

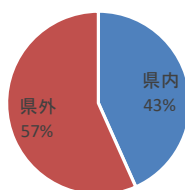


男女比

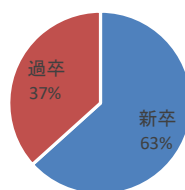


◇一般入試（後期）

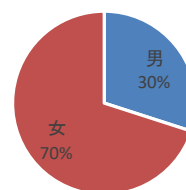
県内・県外比



新卒・過卒比

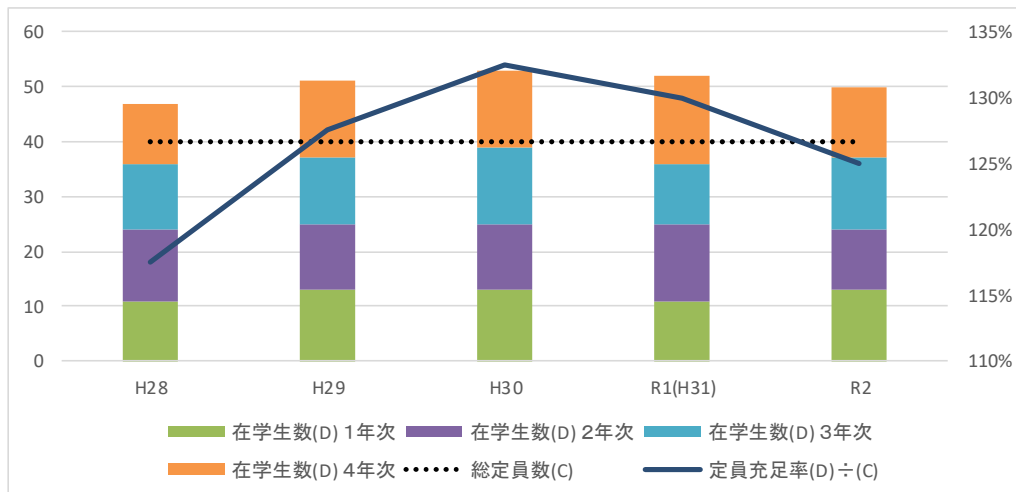


男女比



○絵画専攻 総定員数及び在學生数の推移

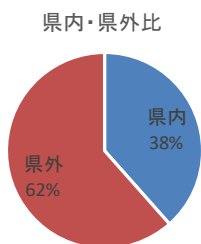
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	40	40	40	40	40
在學生数 (D)	47	51	53	52	50
1年次	11	13	13	11	13
2年次	13	12	12	14	11
3年次	12	12	14	11	13
4年次	11	14	14	16	13
定員充足率 (D) ÷ (C)	118%	128%	133%	130%	125%



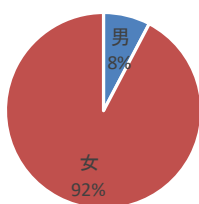
○絵画専攻 R2在學生の比率

	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	5	8	1	12
2年次	8	3	4	7
3年次	4	9	5	8
4年次	6	7	4	9

◇ 1年次

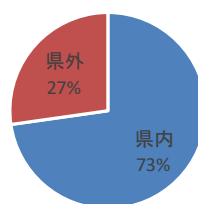


男女比

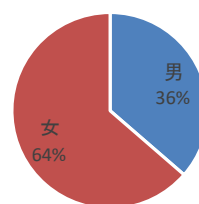


◇ 2年次

県内・県外比

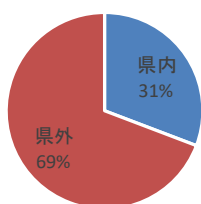


男女比

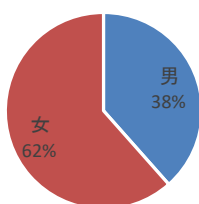


◇ 3年次

県内・県外比

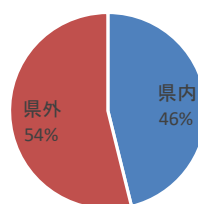


男女比

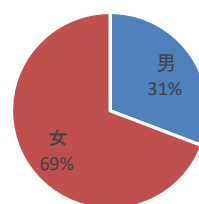


◇ 4年次

県内・県外比



男女比

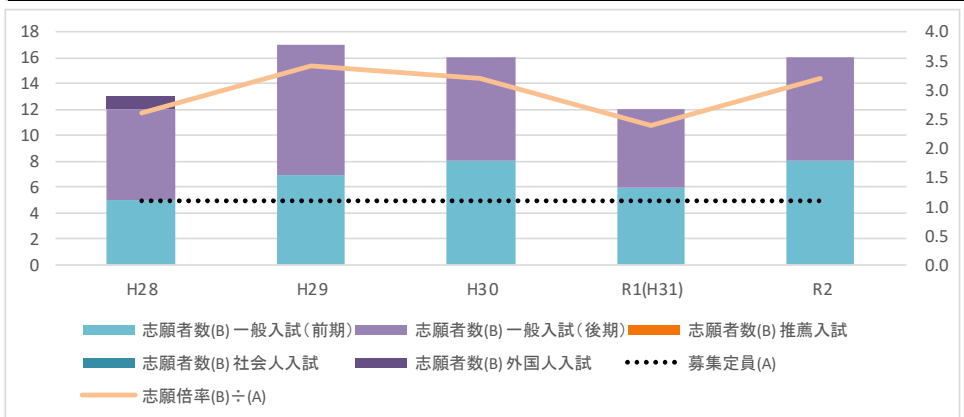


(1)ー2 彫刻専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎美術工芸学部 彫刻専攻分析シート（学生充足関係）

○彫刻専攻 募集定員及び志願者数の推移

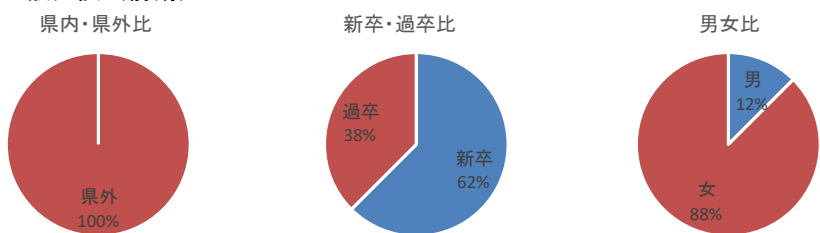
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)	5	5	5	5	5
一般入試（前期）	3	3	3	3	3
一般入試（後期）	2	2	2	2	2
推薦入試	—	—	—	—	—
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	若干名	—	—	—	—
志願者数(B)	13	17	16	12	16
一般入試（前期）	5	7	8	6	8
一般入試（後期）	7	10	8	6	8
推薦入試	—	—	—	—	—
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	1	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)	2.6	3.4	3.2	2.4	3.2



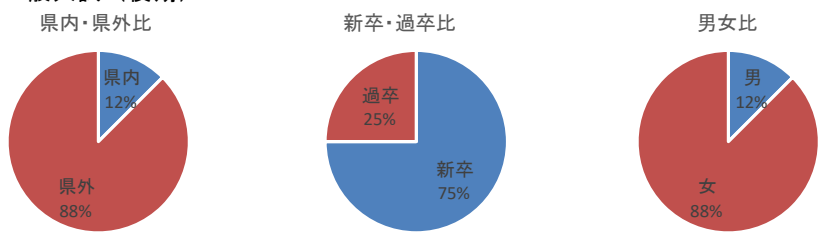
○彫刻専攻 R2一般入試志願者数の傾向

	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試（前期）		8	5	3	1	7
一般入試（後期）	1	7	6	2	1	7

◇一般入試（前期）

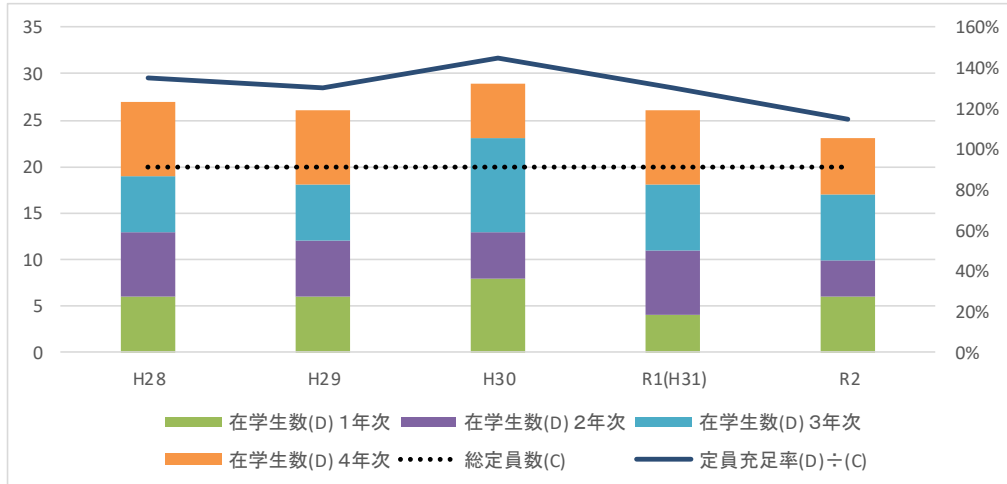


◇一般入試（後期）



○彫刻専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	20	20	20	20	20
在学生数 (D)	27	26	29	26	23
1年次	6	6	8	4	6
2年次	7	6	5	7	4
3年次	6	6	10	7	7
4年次	8	8	6	8	6
定員充足率(D)÷(C)	135%	130%	145%	130%	115%

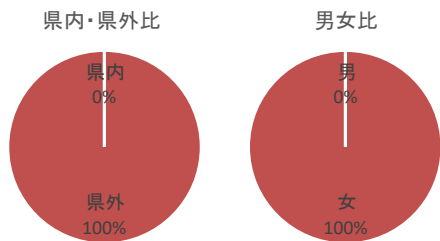


○彫刻専攻

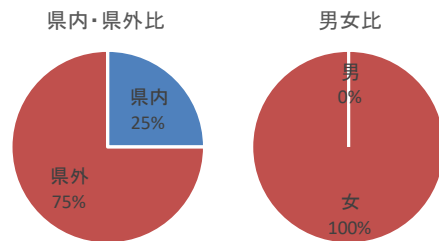
R2在学生の比率

	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	0	6	0	6
2年次	1	3	0	4
3年次	0	7	2	5
4年次	2	4	5	1

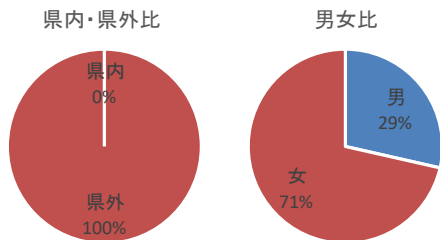
◇ 1年次



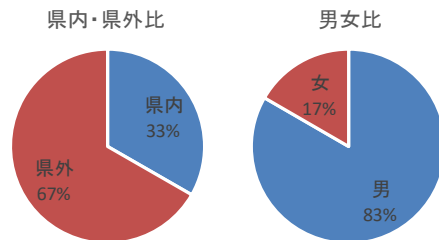
◇ 2年次



◇ 3年次



◇ 4年次

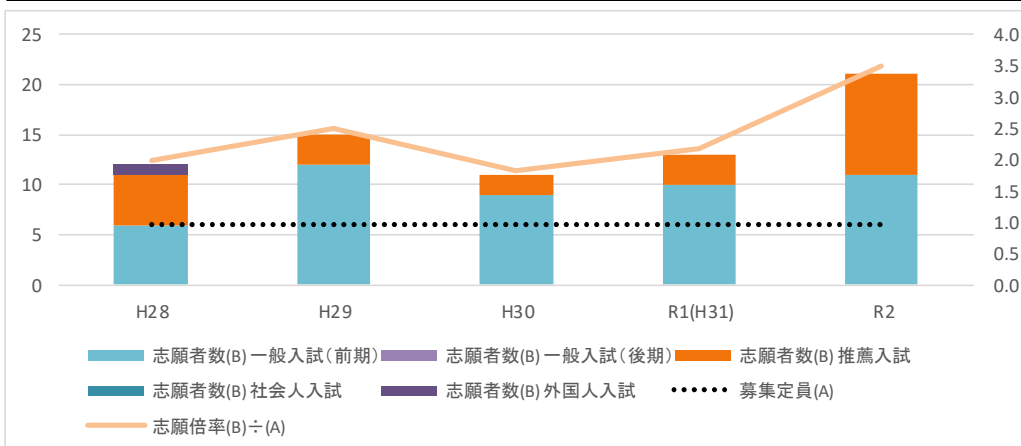


(1)－3 芸術学専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎美術工芸学部 芸術学専攻分析シート（学生充足関係）

○芸術学専攻 募集定員及び志願者数の推移

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員 (A)	6	6	6	6	6
一般入試 (前期)	4	4	4	4	4
一般入試 (後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	2	2	2	2	2
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	若干名	—	—	—	—
志願者数 (B)	12	15	11	13	21
一般入試 (前期)	6	12	9	10	11
一般入試 (後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	5	3	2	3	10
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	1	—	—	—	—
志願倍率 (B) ÷ (A)	2.0	2.5	1.8	2.2	3.5

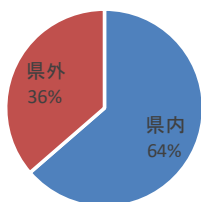


○芸術学専攻 R2一般入試志願者数の傾向

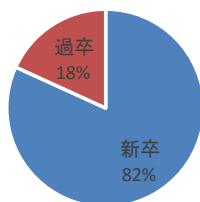
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試 (前期)	7	4	9	2	3	8
一般入試 (後期)	—	—	—	—	—	—

◇一般入試 (前期)

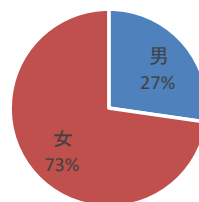
県内・県外比



新卒・過卒比

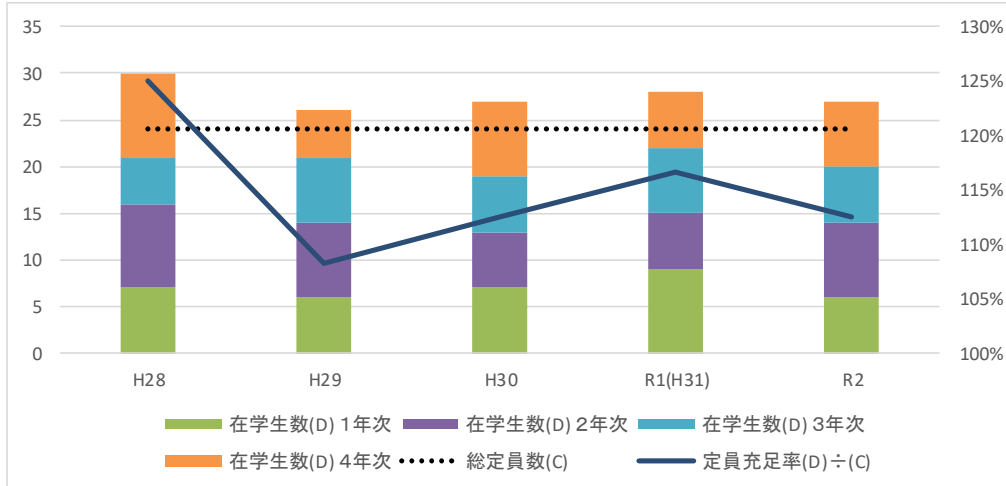


男女比



○芸術学専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	24	24	24	24	24
在学生数 (D)	30	26	27	28	27
1年次	7	6	7	9	6
2年次	9	8	6	6	8
3年次	5	7	6	7	6
4年次	9	5	8	6	7
定員充足率 (D) ÷ (C)	125%	108%	113%	117%	113%



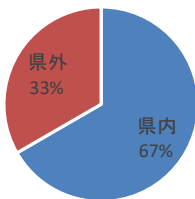
○芸術学専攻

R2在学生の比率

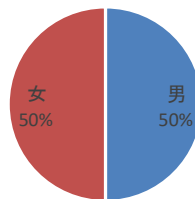
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	4	2	3	3
2年次	4	4	2	6
3年次	2	4	1	5
4年次	5	2	2	5

◇ 1年次

県内・県外比

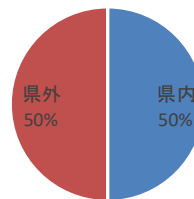


男女比

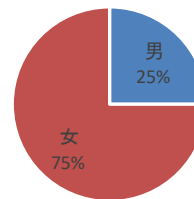


◇ 2年次

県内・県外比

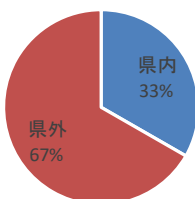


男女比

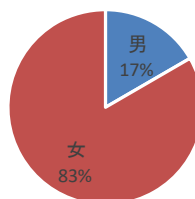


◇ 3年次

県内・県外比

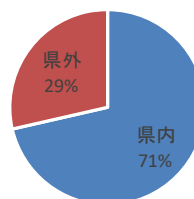


男女比

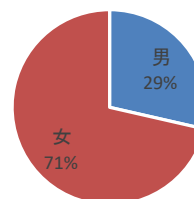


◇ 4年次

県内・県外比



男女比

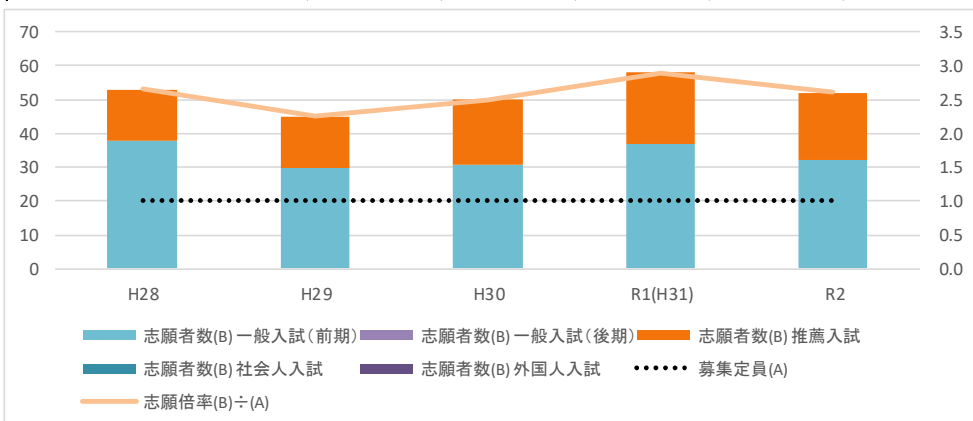


(1) ー 4 デザイン専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎美術工芸学部 デザイン専攻分析シート（学生充足関係）

○デザイン専攻 募集定員及び志願者数の推移

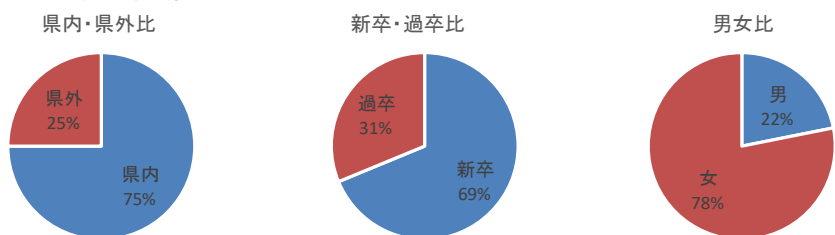
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員 (A)	20	20	20	20	20
一般入試 (前期)	16	16	16	16	16
一般入試 (後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	4	4	4	4	4
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願者数 (B)	53	45	50	58	52
一般入試 (前期)	38	30	31	37	32
一般入試 (後期)	—	—	—	—	—
推薦入試	15	15	19	21	20
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願倍率 (B) ÷ (A)	2.7	2.3	2.5	2.9	2.6



○デザイン専攻 R2一般入試志願者数の傾向

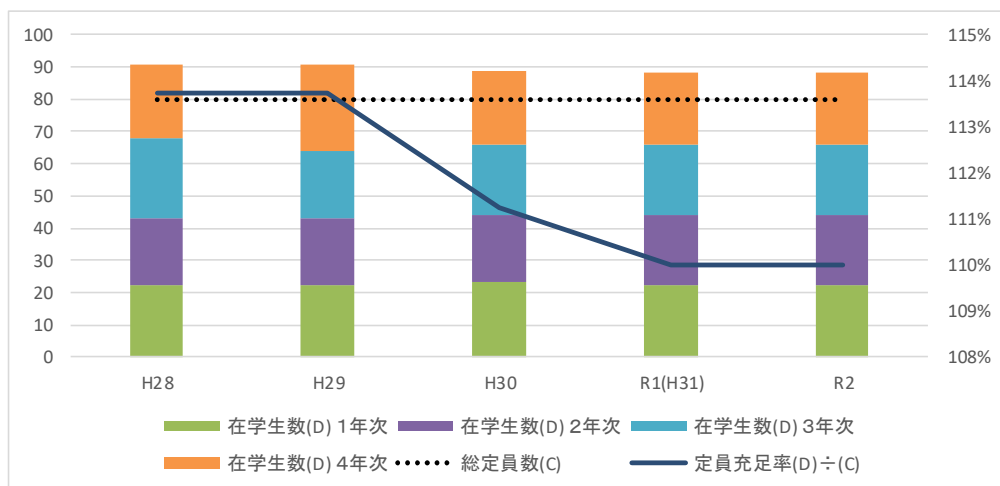
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試 (前期)	24	8	22	10	7	25
一般入試 (後期)	—	—	—	—	—	—

◇一般入試 (前期)



○デザイン専攻 総定員数及び在学生数の推移

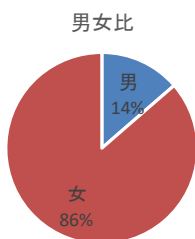
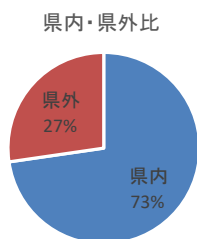
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	80	80	80	80	80
在学生数 (D)	91	91	89	88	88
1年次	22	22	23	22	22
2年次	21	21	21	22	22
3年次	25	21	22	22	22
4年次	23	27	23	22	22
定員充足率 (D) ÷ (C)	114%	114%	111%	110%	110%



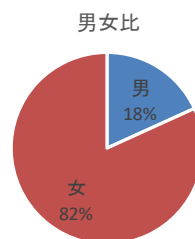
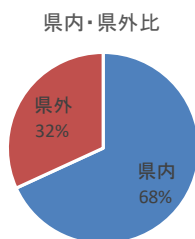
○デザイン専攻 R2在学生の比率

	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	16	6	3	19
2年次	15	7	4	18
3年次	19	3	6	16
4年次	18	4	5	17

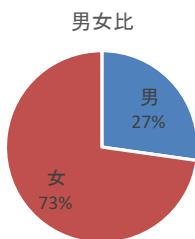
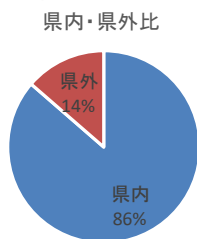
◇ 1年次



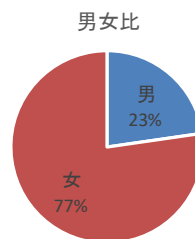
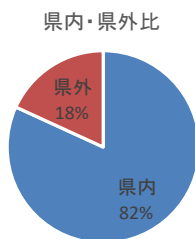
◇ 2年次



◇ 3年次



◇ 4年次

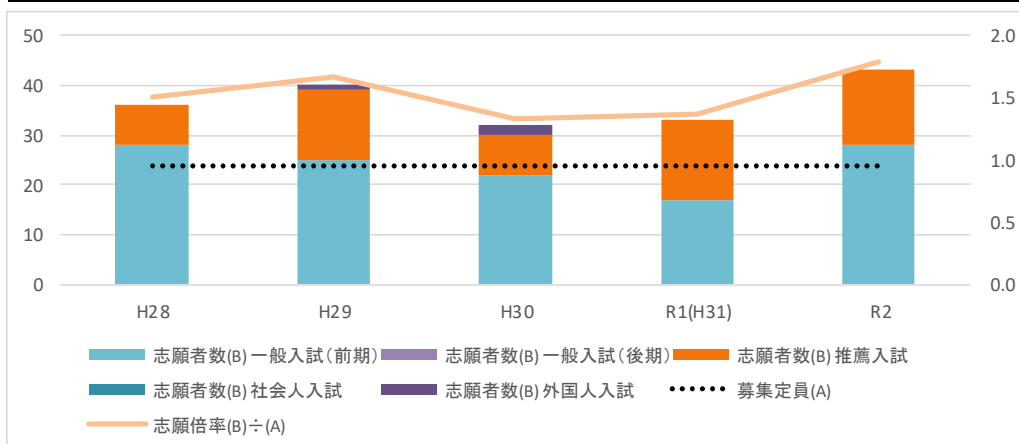


(1) - 5 工芸専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎美術工芸学部 工芸専攻分析シート（学生充足関係）

○工芸専攻 募集定員及び志願者数の推移

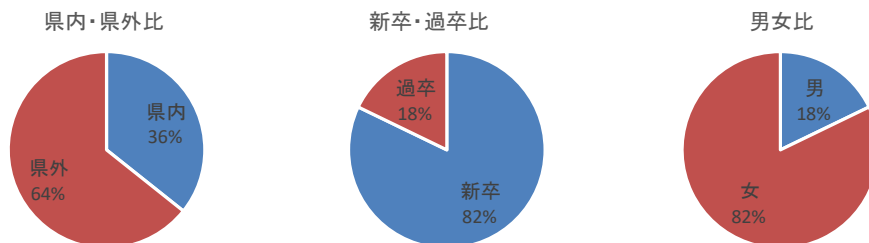
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)	24	24	24	24	24
一般入試（前期）	18	18	18	18	18
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	6	6	6	6	6
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	若干名	若干名	若干名	若干名
志願者数(B)	36	40	32	33	43
一般入試（前期）	28	25	22	17	28
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	8	14	8	16	15
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	1	2	0	0
志願倍率(B) ÷ (A)	1.5	1.7	1.3	1.4	1.8



○工芸専攻 R2一般入試志願者数の傾向

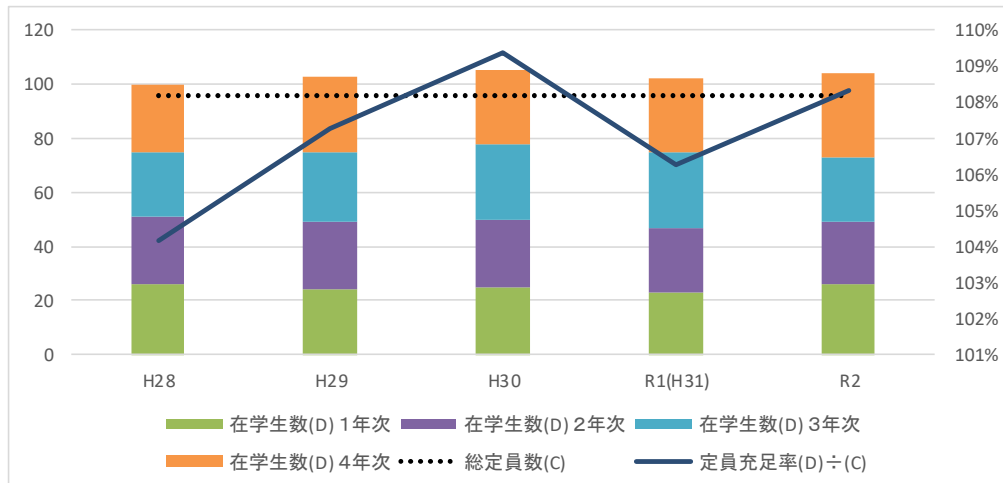
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試（前期）	10	18	23	5	5	23
一般入試（後期）	—	—	—	—	—	—

◇一般入試（前期）



○工芸専攻 総定員数及び在学生数の推移

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	96	96	96	96	96
在学生数 (D)	100	103	105	102	104
1年次	26	24	25	23	26
2年次	25	25	25	24	23
3年次	24	26	28	28	24
4年次	25	28	27	27	31
定員充足率 (D) ÷ (C)	104%	107%	109%	106%	108%



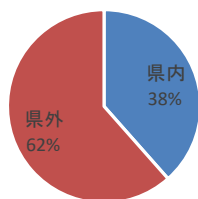
○工芸専攻

R2在学生の比率

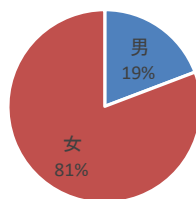
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	10	16	5	21
2年次	11	12	2	21
3年次	12	12	5	19
4年次	16	15	9	22

◇ 1年次

県内・県外比

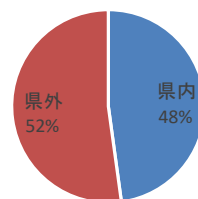


男女比

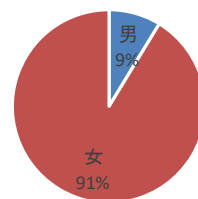


◇ 2年次

県内・県外比

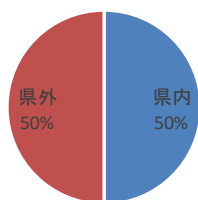


男女比

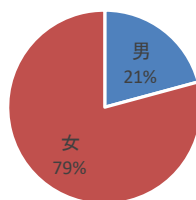


◇ 3年次

県内・県外比

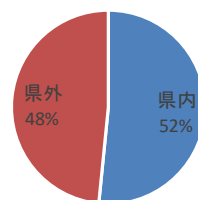


男女比

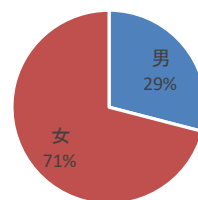


◇ 4年次

県内・県外比



男女比

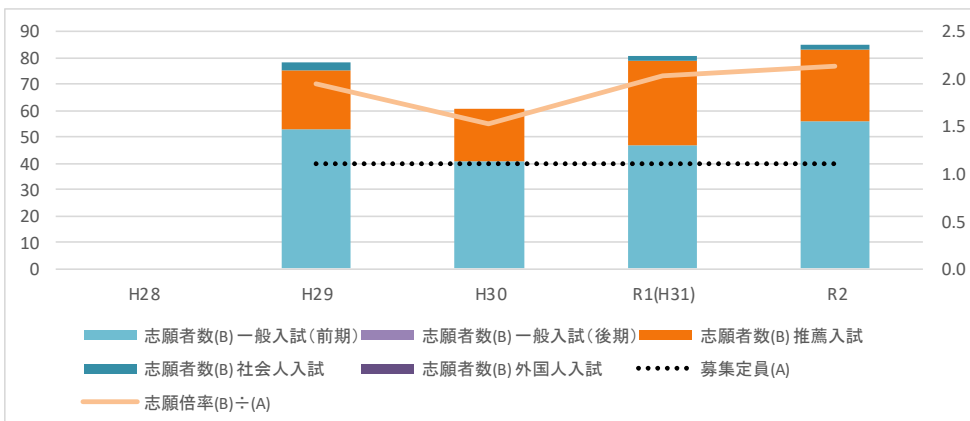


(2) 音楽学部における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎音楽学部 分析シート(学生充足関係)

○音楽学部 募集定員及び志願者数の推移

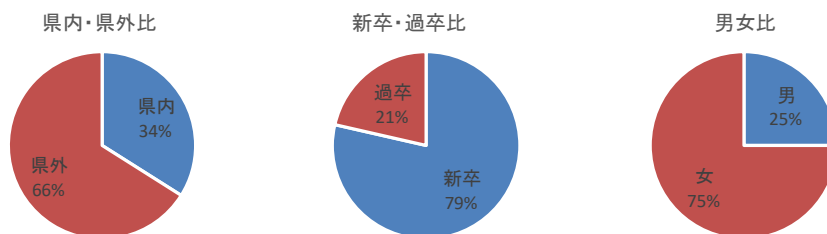
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)		40	40	40	40
一般入試(前期)	—	26	26	26	26
一般入試(後期)	—	0	0	0	0
推薦入試	—	14	14	14	14
社会人入試	—	0	0	0	0
外国人入試	—	0	0	0	0
志願者数(B)		78	61	81	85
一般入試(前期)	—	53	41	47	56
一般入試(後期)	—	0	0	0	0
推薦入試	—	22	20	32	27
社会人入試	—	3	0	2	2
外国人入試	—	0	0	0	0
志願倍率(B)÷(A)		2.0	1.5	2.0	2.1



○音楽学部 R2一般入試志願者数の傾向

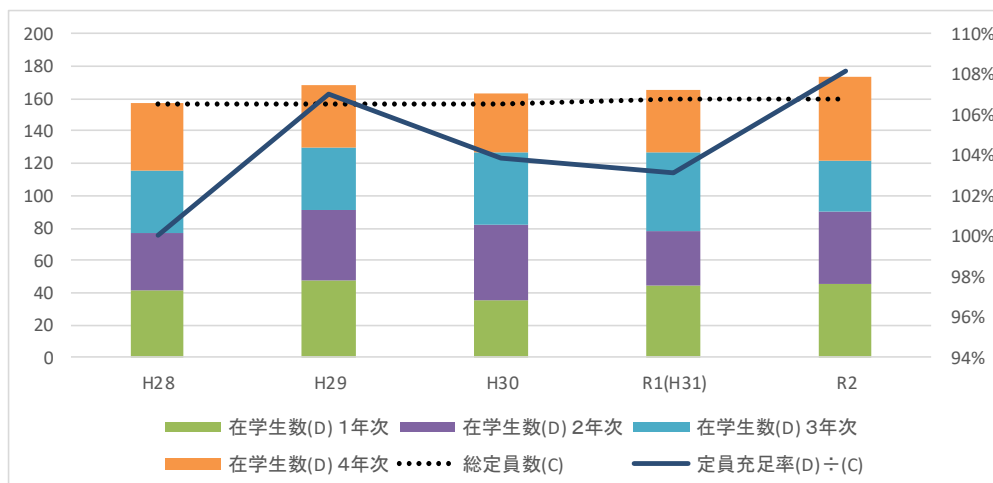
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試(前期)	19	37	44	12	14	42
一般入試(後期)	0	0	0	0	0	0

◇一般入試(前期)



○音楽学部 総定員数及び在学生数の推移

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	157	157	157	160	160
在学生数 (D)	157	168	163	165	173
1年次	41	47	35	44	45
2年次	36	44	47	34	45
3年次	39	39	45	49	32
4年次	41	38	36	38	51
定員充足率 (D) ÷ (C)	100%	107%	104%	103%	108%



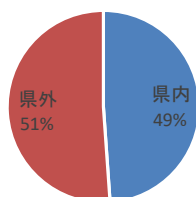
○音楽学部

R2在学生の比率

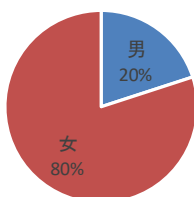
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	22	23	9	36
2年次	26	19	12	33
3年次	19	13	9	23
4年次	26	25	13	38

◇ 1年次

県内・県外比

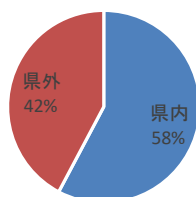


男女比

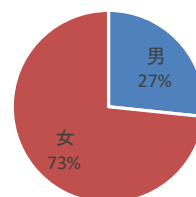


◇ 2年次

県内・県外比

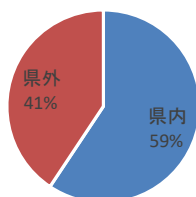


男女比

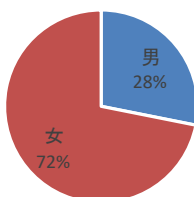


◇ 3年次

県内・県外比

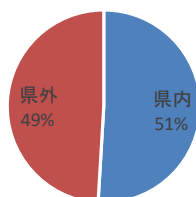


男女比

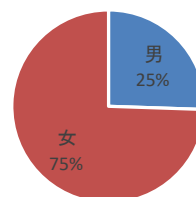


◇ 4年次

県内・県外比



男女比

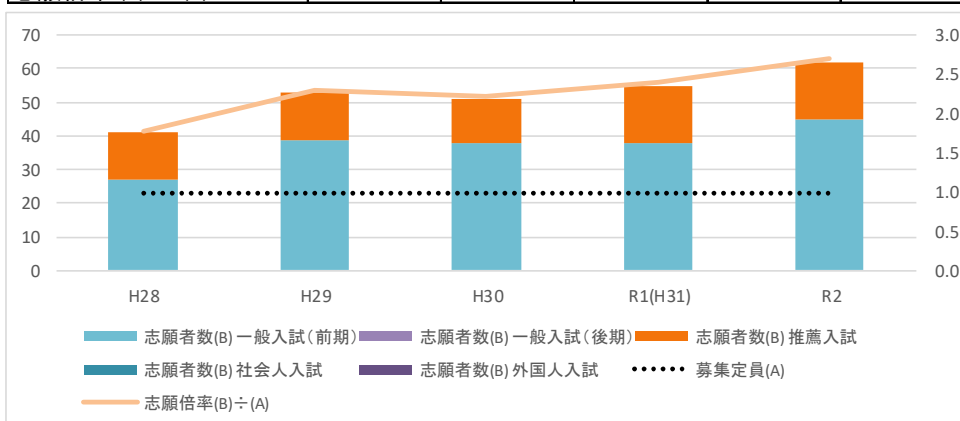


(2) - 1 音楽表現専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎音楽学部 音楽表現専攻分析シート（学生充足関係）

○音楽表現専攻 募集定員及び志願者数の推移

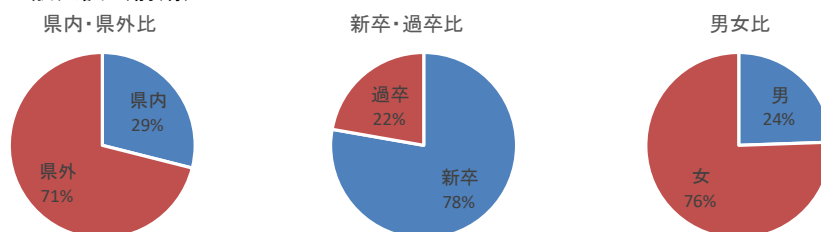
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)	23	23	23	23	23
一般入試（前期）	17	17	17	17	17
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	6	6	6	6	6
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願者数(B)	41	53	51	55	62
一般入試（前期）	27	39	38	38	45
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	14	14	13	17	17
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)	1.8	2.3	2.2	2.4	2.7



○音楽表現専攻 R2一般入試志願者数の傾向

	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試（前期）	13	32	35	10	11	34
一般入試（後期）	—	—	—	—	—	—

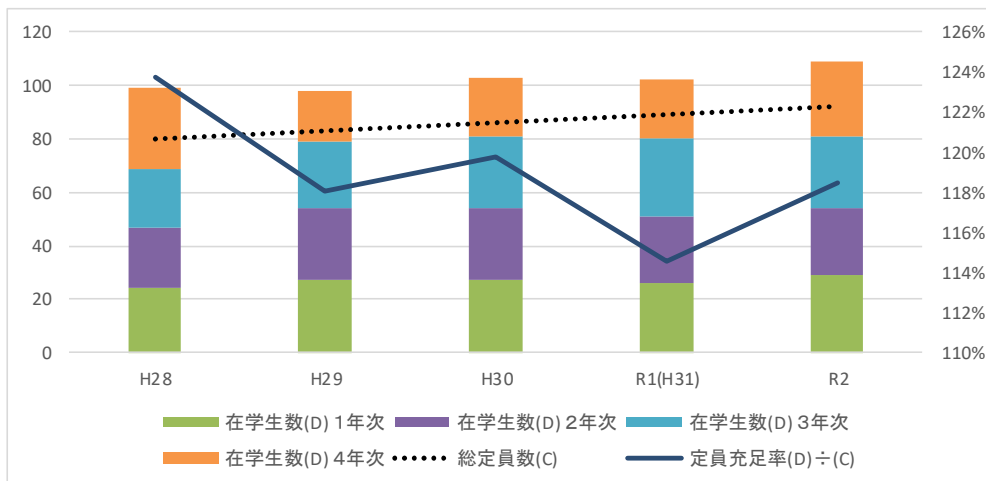
◇一般入試（前期）



○音楽表現専攻 総定員数及び在学生数の推移

※学部再編に伴い、色付きの箇所は「声楽、器楽専攻」の情報が含まれています。

	H28	H29	H30	R1(H31)	R2
総定員数(C)	80	83	86	89	92
在学生数(D)	99	98	103	102	109
1年次	24	27	27	26	29
2年次	23	27	27	25	25
3年次	22	25	27	29	27
4年次	30	19	22	22	28
定員充足率(D)÷(C)	124%	118%	120%	115%	118%



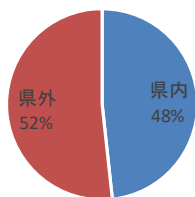
○音楽表現専攻

R2在学生の比率

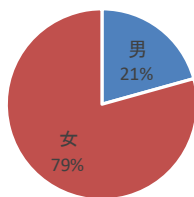
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	14	15	6	23
2年次	14	11	3	22
3年次	15	12	9	18
4年次	10	18	5	23

◇ 1年次

県内・県外比

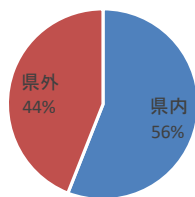


男女比

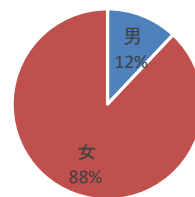


◇ 2年次

県内・県外比

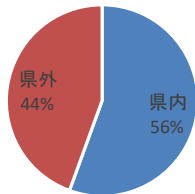


男女比

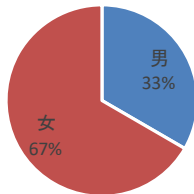


◇ 3年次

県内・県外比

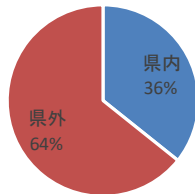


男女比

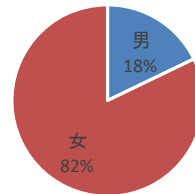


◇ 4年次

県内・県外比



男女比

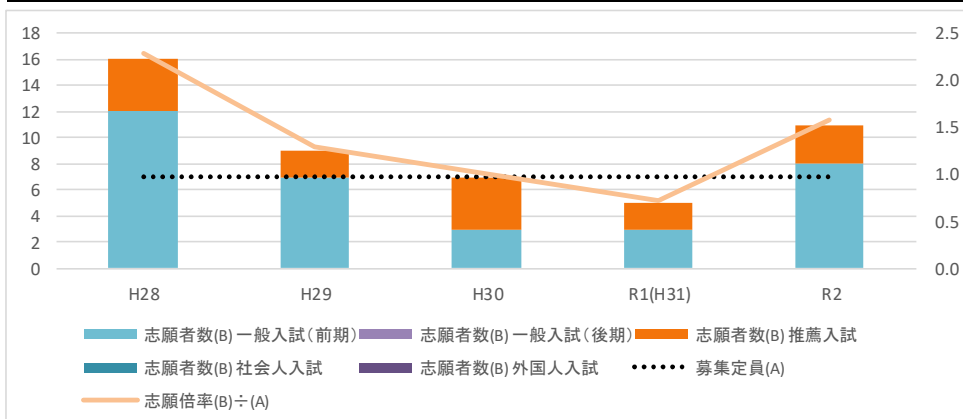


(2)-2 音楽文化専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎音楽学部 音楽文化専攻分析シート（学生充足関係）

○音楽文化専攻 募集定員及び志願者数の推移

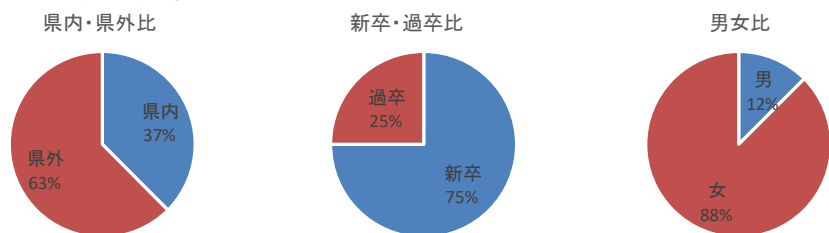
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)	7	7	7	7	7
一般入試（前期）	4	4	4	4	4
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	3	3	3	3	3
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願者数(B)	16	9	7	5	11
一般入試（前期）	12	7	3	3	8
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	4	2	4	2	3
社会人入試	—	—	—	—	—
外国人入試	—	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)	2.3	1.3	1.0	0.7	1.6



○音楽文化専攻 R2一般入試志願者数の傾向

	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試（前期）	3	5	6	2	1	7
一般入試（後期）	—	—	—	—	—	—

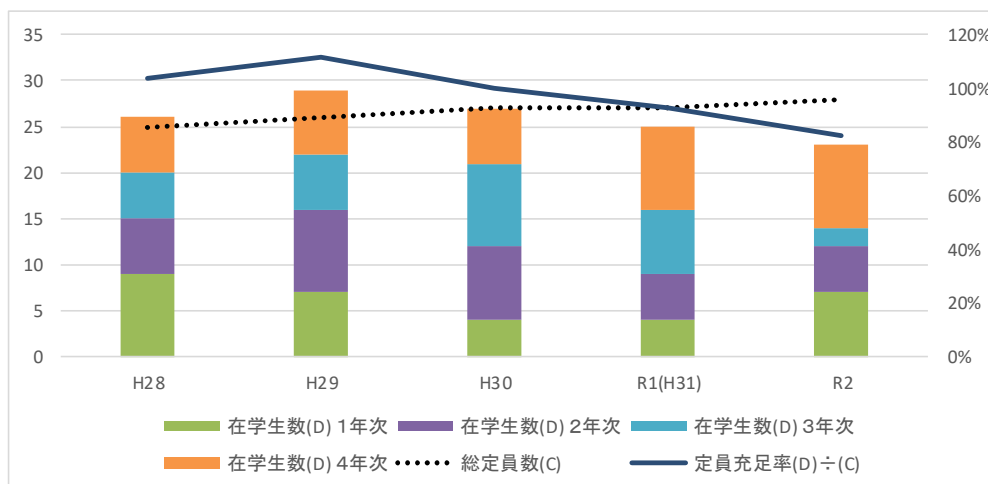
◇一般入試（前期）



○音楽文化専攻 総定員数及び在学生数の推移

※学部再編に伴い、色付きの箇所は「音楽学専攻」の情報が含まれています。

	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	25	26	27	27	28
在学生数 (D)	26	29	27	25	23
1年次	9	7	4	4	7
2年次	6	9	8	5	5
3年次	5	6	9	7	2
4年次	6	7	6	9	9
定員充足率 (D) ÷ (C)	104%	112%	100%	93%	82%



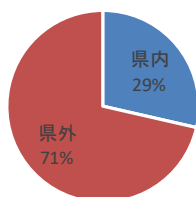
○音楽文化専攻

R2在学生の比率

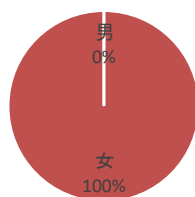
	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	2	5	0	7
2年次	1	4	2	3
3年次	2	0	0	2
4年次	6	3	4	5

◇ 1年次

県内・県外比

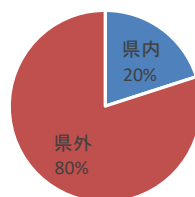


男女比

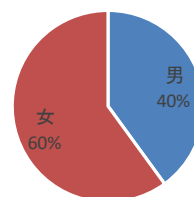


◇ 2年次

県内・県外比

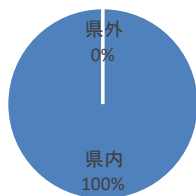


男女比

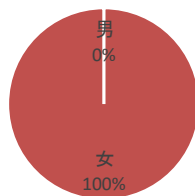


◇ 3年次

県内・県外比

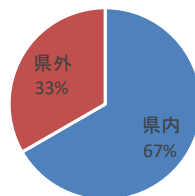


男女比

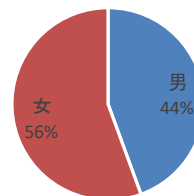


◇ 4年次

県内・県外比



男女比

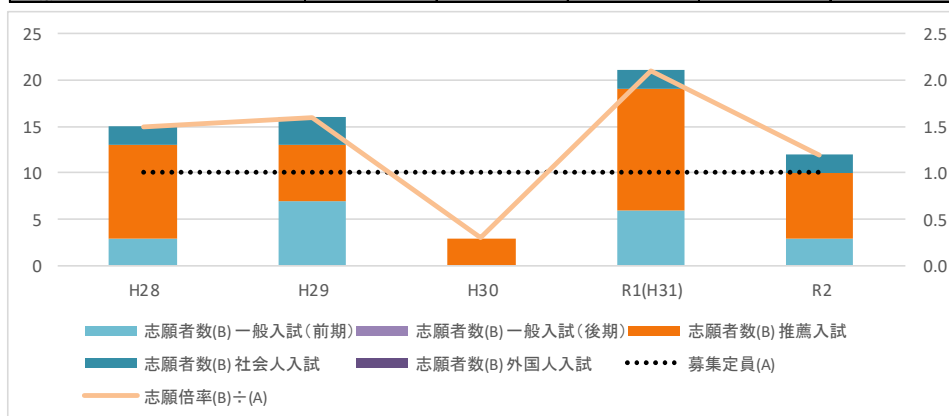


(2)ー3 琉球芸能専攻における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎音楽学部 琉球芸能専攻分析シート（学生充足関係）

○琉球芸能専攻 募集定員及び志願者数の推移

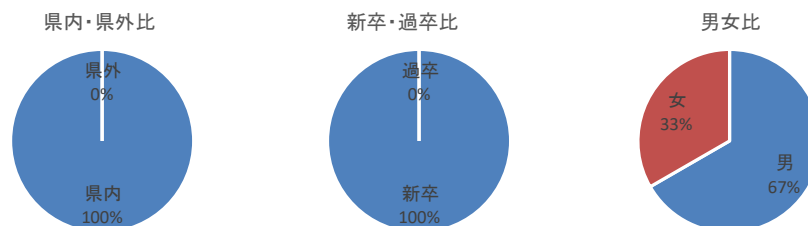
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)	10	10	10	10	10
一般入試（前期）	5	5	5	5	5
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	5	5	5	5	5
社会人入試	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
外国人入試	—	—	—	—	—
志願者数(B)	15	16	3	21	12
一般入試（前期）	3	7	0	6	3
一般入試（後期）	—	—	—	—	—
推薦入試	10	6	3	13	7
社会人入試	2	3	0	2	2
外国人入試	—	—	—	—	—
志願倍率(B)÷(A)	1.5	1.6	0.3	2.1	1.2



○琉球芸能専攻 R2一般入試志願者数の傾向

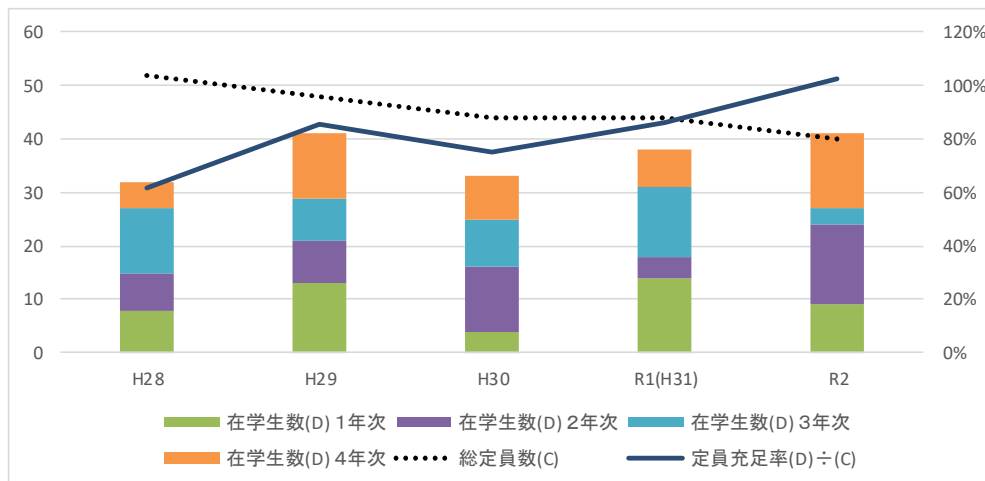
	県内・県外		新卒・過卒		男女	
	県内	県外	新卒	過卒	男	女
一般入試（前期）	3	0	3	0	2	1
一般入試（後期）	—	—	—	—	—	—

◇一般入試（前期）



○琉球芸能専攻 総定員数及び在学生数の推移

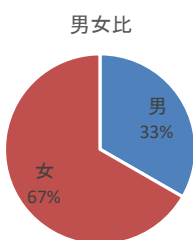
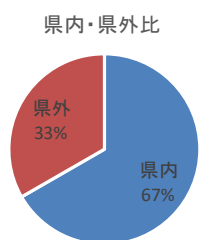
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数 (C)	52	48	44	44	40
在学生数 (D)	32	41	33	38	41
1年次	8	13	4	14	9
2年次	7	8	12	4	15
3年次	12	8	9	13	3
4年次	5	12	8	7	14
定員充足率 (D) ÷ (C)	62%	85%	75%	86%	103%



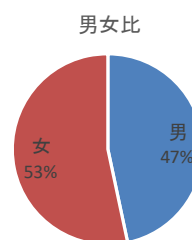
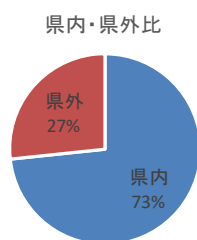
○琉球芸能専攻 R2在学生の比率

	県内・県外		男女	
	県内	県外	男	女
1年次	6	3	3	6
2年次	11	4	7	8
3年次	2	1	0	3
4年次	10	4	4	10

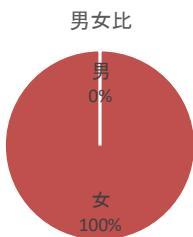
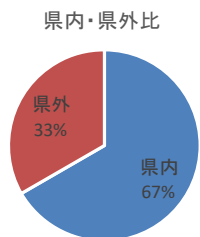
◇ 1年次



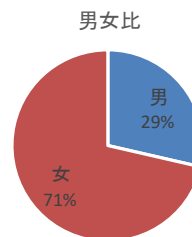
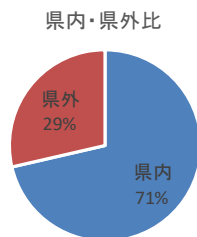
◇ 2年次



◇ 3年次



◇ 4年次

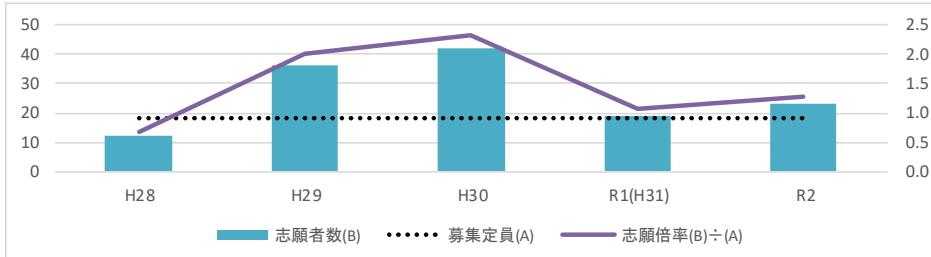


(3) 大学院修士課程 造形芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎ 大学院造形芸術研究科 分析シート（学生充足関係）

○ 造形芸術研究科 募集定員及び志願者数の推移

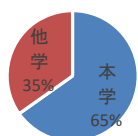
	H28	H29	H30	R1(H31)	R2
募集定員(A)	18	18	18	18	18
志願者数(B)	12	36	42	19	23
志願倍率(B)÷(A)	0.7	2.0	2.3	1.1	1.3



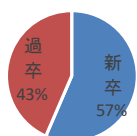
○ 造形芸術研究科 R2志願者の傾向

	本学・他学		新卒・過卒		男女	
	本学	他学	新卒	過卒	男	女
志願者	15	8	13	10	8	15

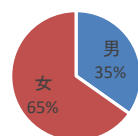
本学・他学比



新卒・過卒比

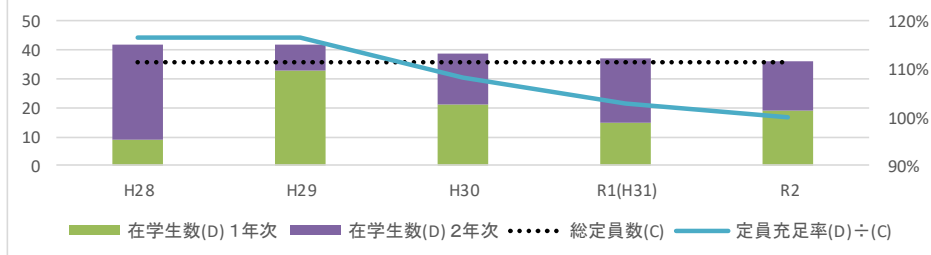


男女比



○ 造形芸術研究科 総定員数及び在学生数の推移

	H28	H29	H30	R1(H31)	R2
総定員数(C)	36	36	36	36	36
在学生数(D)	42	42	39	37	36
1年次	9	33	21	15	19
2年次	33	9	18	22	17
定員充足率(D)÷(C)	117%	117%	108%	103%	100%

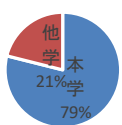


○ 造形芸術研究科 R2在学生の比率

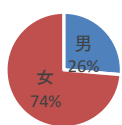
	本学・他学		男女	
	本学	他学	男	女
1年次	15	4	5	14
2年次	13	4	8	9

◇ 1年次

本学・他学比

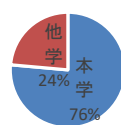


男女比

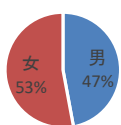


◇ 2年次

本学・他学比



男女比

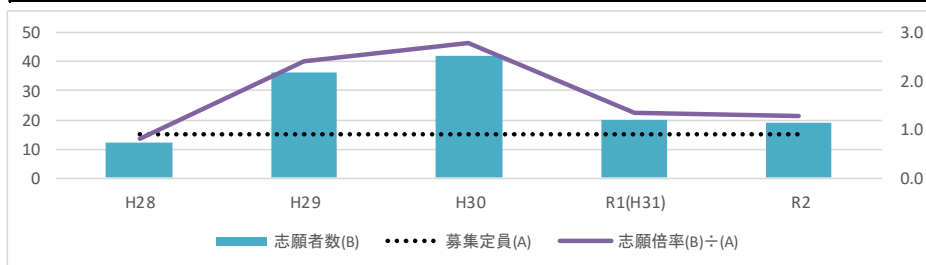


(4) 大学院修士課程音楽芸術研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎大学院音楽芸術研究科 分析シート（学生充足関係）

○音楽芸術研究科 募集定員及び志願者数の推移

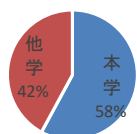
	H28	H29	H30	R1(H31)	R2
募集定員(A)	15	15	15	15	15
志願者数(B)	12	36	42	20	19
志願倍率(B)÷(A)	0.8	2.4	2.8	1.3	1.3



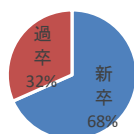
○音楽芸術研究科 R2志願者の傾向

	本学・他学		新卒・過卒		男女	
	本学	他学	新卒	過卒	男	女
志願者	11	8	13	6	6	13

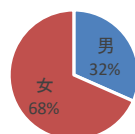
本学・他学比



新卒・過卒比

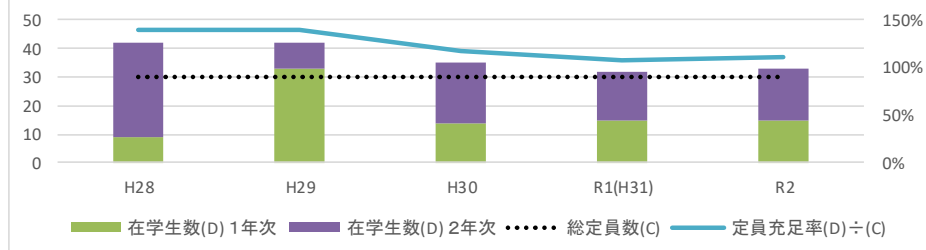


男女比



○音楽芸術研究科 総定員数及び在学生数の推移

	H28	H29	H30	R1(H31)	R2
総定員数(C)	30	30	30	30	30
在学生数(D)	42	42	35	32	33
1年次	9	33	14	15	15
2年次	33	9	21	17	18
定員充足率(D)÷(C)	140%	140%	117%	107%	110%

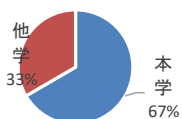


○音楽芸術研究科 R2在学生の比率

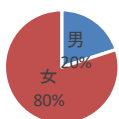
	本学・他学		男女	
	本学	他学	男	女
1年次	10	5	3	12
2年次	11	7	8	10

◇1年次

本学・他学比

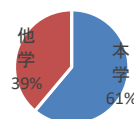


男女比

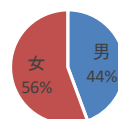


◇2年次

本学・他学比



男女比

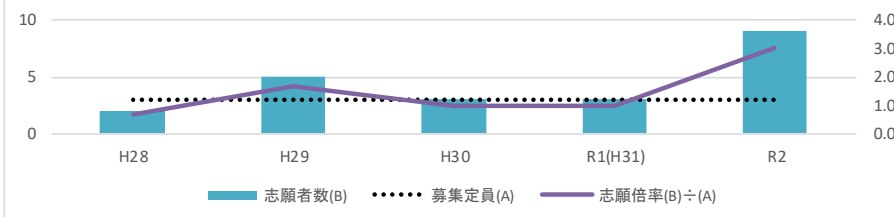


(5) 大学院後期博士課程 芸術文化学研究科における総定員数、志願者数、在学生数の推移

◎大学院芸術文化学研究科 分析シート（学生充足関係）

○芸術文化学研究科 募集定員及び志願者数の推移

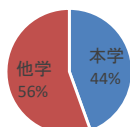
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
募集定員(A)	3	3	3	3	3
志願者数(B)	2	5	3	3	9
志願倍率(B)÷(A)	0.7	1.7	1.0	1.0	3.0



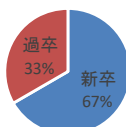
○芸術文化学研究科 R2志願者の傾向

	本学・他学		新卒・過卒		男女	
	本学	他学	新卒	過卒	男	女
志願者	4	5	6	3	4	5

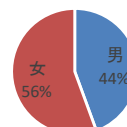
本学・他学比



新卒・過卒比

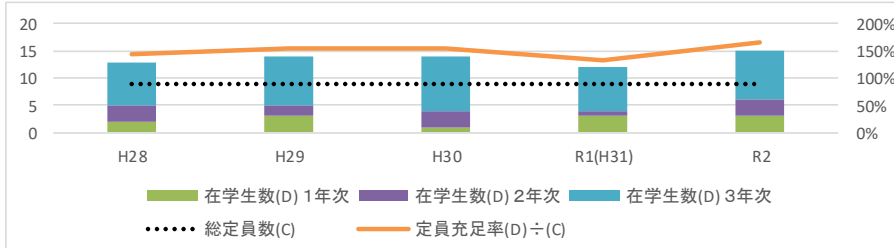


男女比



○芸術文化学研究科 総定員数及び在学生数の推移

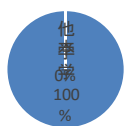
	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
総定員数(C)	9	9	9	9	9
在学生数(D)	13	14	14	12	15
1年次	2	3	1	3	3
2年次	3	2	3	1	3
3年次	8	9	10	8	9
定員充足率(D)÷(C)	144%	156%	156%	133%	167%



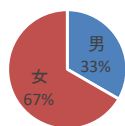
○芸術文化学研究科 R2在学生の比率

	本学・他学		男女	
	本学	他学	男	女
1年次	3	0	1	2
2年次	1	2	3	0
3年次	5	4	5	4

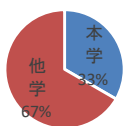
◇1年次 本学・他学比



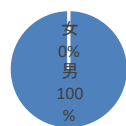
男女比



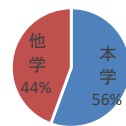
◇2年次 本学・他学比



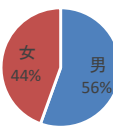
男女比



◇3年次 本学・他学比



男女比



9 IRの試み【修業年限期間内に卒業する学生の割合、中途退学者数、初年次退学者数】

令和元年度に卒業、修了した学生のうち、88%は修業年限を超えることなく卒業、修了している。また、令和元年5月1日時点で在籍した学生のうち、年度中に中途退学した者の割合は2.39%となっている。

	卒業・修了した		
	学生の数 (R1年度)	修業年限卒業・ 修了者数	割合
全体	133	117	88%
美術工芸学部	69	60	87%
絵画専攻	15	11	73%
彫刻専攻	5	4	80%
芸術学専攻	6	5	83%
デザイン専攻	21	19	90%
工芸専攻	22	21	95%
音楽学部	31	28	90%
音楽表現専攻	21	19	90%
音楽文化専攻	5	5	100%
琉球芸能専攻	5	4	80%
造形芸術研究科	20	19	95%
生活造形専攻	8	8	100%
環境造形専攻	10	9	90%
比較芸術学専攻	2	2	100%
音楽芸術研究科	13	10	77%
舞台芸術専攻	4	3	75%
演奏芸術専攻	9	7	78%
音楽学専攻	0	0	—
芸術文化学研究科	0	0	—

	学生数			入学者数		
	(R1.5.1時点)	中途退学者 (R1年度)	割合	(R1年度)	初年次退学者 (R1年度中)	割合
※出典:文部科学省調査結果H24全国平均(院を除く)			2.65%	—	—	—
学部・大学院合計	544	13	2.39%	140	0	0%
学部小計	463	12	2.59%	108	0	0%
美術工芸学部	296	7	2.36%	67	0	0%
絵画専攻	52	0	0.00%	11	0	0%
彫刻専攻	26	3	11.54%	4	0	0%
芸術学専攻	28	1	3.57%	8	0	0%
デザイン専攻	88	1	1.14%	22	0	0%
工芸専攻	102	2	1.96%	22	0	0%
音楽学部	167	5	2.99%	41	0	0%
音楽表現専攻	104	4	3.85%	24	0	0%
音楽文化専攻	25	1	4.00%	4	0	0%
琉球芸能専攻	38	0	0.00%	13	0	0%
大学院小計	81	1	1.23%	32	0	0%
造形芸術研究科	37	0	0.00%	15	0	0%
生活造形専攻	21	0	0.00%	12	0	0%
環境造形専攻	13	0	0.00%	2	0	0%
比較芸術学専攻	3	0	0.00%	1	0	0%
音楽芸術研究科	32	1	3.13%	14	0	0%
舞台芸術専攻	10	0	0.00%	4	0	0%
演奏芸術専攻	17	0	0.00%	7	0	0%
音楽学専攻	5	1	20.00%	3	0	0%
芸術文化学研究科	12	0	0.00%	3	0	0%

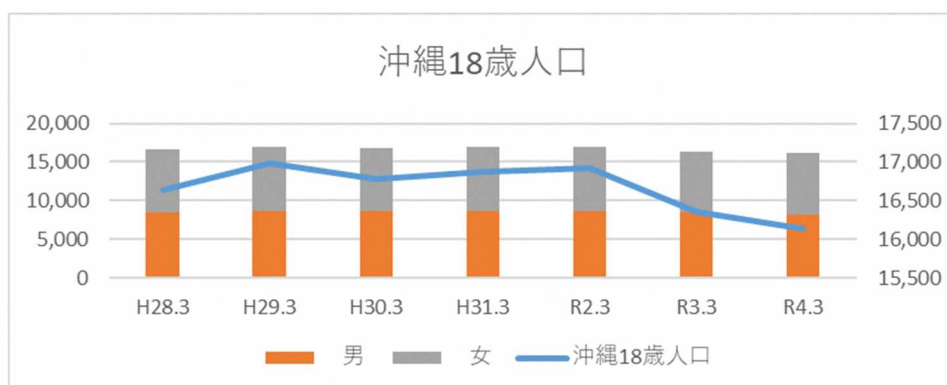
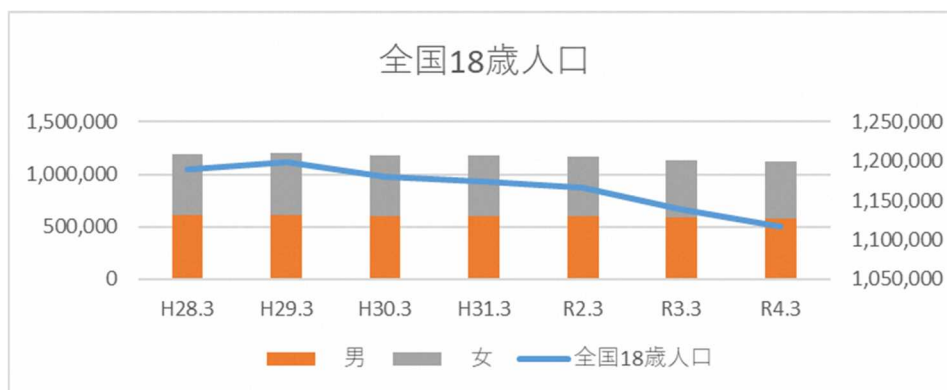
※音楽学部再編に係る声楽専攻、器楽専攻は音楽表現専攻に、音楽学専攻は音楽文化専攻に集計し算出。

10 IRの試み【18歳年齢人口の推移について】

○統計の傾向

全国18歳人口について、H29.3以降減少する傾向にある。

沖縄18歳人口について、R2.3以降減少する傾向にある。



【18歳人口】3年前の中学校卒業生数+3年前の中等教育学校前期課程修了者数
(引用) 学校基本調査「状況別卒業生数」、「前期課程の状況別修了者数」

※H31.3以降は予測値

○志願者の状況

美術工芸学部の令和2年度志願者は、145名となっており、そのうち県外からの志願者は77名(53.1%)となっている。

音楽学部の令和2年度志願者は、56名となっており、そのうち県外からの志願者は37名(66.1%)となっている。

○学生の状況

美術工芸学部の令和2年度学生数は、292名となっており、そのうち県外からの学生数は134名(45.9%)となっている。

音楽学部の令和2年度学生数は、173名となっており、そのうち県外からの学生数は80名(46.2%)となっている。

11 県計画関連指標

○沖縄 21 世紀ビジョン基本計画【後期改訂版】(芸大関連のみ抜粋)

(1) 沖縄21世紀ビジョン基本計画【後期改訂版】(芸大関連のみ抜粋)

◆ 県立芸術大学卒業者の就職率(起業含む)

基準値 H23	H25 (H26.3卒)	H26 (H27.3卒)	H27 (H28.3卒)	H28 (H29.3卒)	H29 (H30.3卒)	H30 (H31.3卒)	R1(H31) (R2.3卒)	R2 (R3.3卒)	目標値 R3
58.0%	60.0%	68.7%	72.9%	60.4%	77.6%	67.3%	81.1% (63.6%)	(64.3%)	65.0%

※()書は計画値を記載

◆ 県立芸術大学卒業生数(累計)

基準値 H23	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1(H31)	R2	目標値 R3
2,809人	3,098人	3,245人	3,363人	3,500人	3,620人	3,754人	3,887人 (3,804人)	(3,929人)	4,053人

※()書は計画値を記載

(2) 沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】(芸大関連のみ抜粋)

◆ 成果指標

11 社会の信頼に応える学士課程教育の推進(県立大学)

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
卒業生数(人)	98	100	105	95.2%
教職資格取得者数(人)	53	50	60	83.3%
学芸員資格取得者数(人)	21	17	25	68.0%

12 大学院教育の強化(県立大学)

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
修士課程修了者数(人)	33	33	35	94.3%
博士課程修了者数(人)	3	0	5	0.0%
姉妹校締結校数(校)	11	11	13	84.6%

13 大学の教育研究の推進と基盤の強化(県立大学)

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
プロジェクト等の共同研究数	0	2	—	—
新規	0	2	6	33.3%
継続	0	0	—	—
科学研究費の外部資金の獲得数	13	12	—	—
新規	4	3	12	25.0%
継続	9	9	—	—
地域団体との共同研究数	2	2	5	40.0%

14 大学による社会貢献の推進(県立大学)

成果指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
「公開講座」の開催数	48	44	44	100.0%
展示会開催数(芸術資料館)	38	37	35	105.7%

○沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】(芸大関連のみ抜粋)

◆ 活動指標

11 社会の信頼に応える学士課程教育の推進(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
オープンキャンパス参加者数	269	285	250	114.0%
卒業修了制作作品展観覧者数	6,609	5,365	3,500	153.3%
卒業演奏会入場者数	560	0	450	0.0%

12 大学院教育の強化(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
外国人留学生受入数	12	11	13	84.6%
留学生派遣人数	2	2	3	66.7%
単位互換校数	10	10	5	200.0%

13 大学の教育研究の推進と基盤の強化(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
教員の研究論文発表件数	31	37	30	123.3%
実技系教員の作品発表、演奏会数	140	233	130	179.2%
科学研究費獲得のための申請数	18	21	15	140.0%

14 大学による社会貢献の推進(県立大学)

活動指標	実績値		目標値	達成率
	H30	R1(H31)	H33	R1(H31)
公開講座参加者数	1,993	2,015	1,900	106.1%
展示会観覧者数(芸術資料館)	10,988	11,364	13,000	87.4%
演奏会入場者数	3,671	1,594	4,500	35.4%
図書館利用者数	18,703	19,225	21,500	89.4%

12 関係資料

(1) 建学の理念

日本文化の中における沖縄の地域文化の特性と伝統は、極めて特徴的であり、文化伝統の源流を探り、文化生成の普遍性を究めるために不可欠の内容をもつものである。わけても沖縄固有の風土によって培われた個性的な芸術文化の継承と創造の問題は、日本文化としてはもちろんのこと、沖縄県にとっても重要な課題であるといわざるを得ない。そして、それらを担う人材の育成もまた長い未来への架橋として緊要なことである。

県立芸術大学を建学する基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあるが、そのためには、地域文化の個性を明らかにし、その中に占める美術・工芸、音楽・芸能等さまざまな伝統芸術の問題に積極的かつ具体的に取り組み、その特性を生かすことでなければならない。このことは、日本文化の内容をより豊かにするとともに、ひいては、国際的な芸術的文化活動にも寄与するものと信ずる。

我が国の最南に位置する県立芸術大学は、東アジア、東南アジアを軸とした太平洋文化圏の中心として、それらの地域における多様な芸術文化の実態と、地域文化伝統の個性とのかかわりを明らかにし、その広がりを見出し、汎アジア的芸術文化に特色をおいたユニークな研究教育機関にしたい。

(2) 沖縄県立芸術大学（学部）3つのポリシー

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学では、大学及び各学部の教育理念に沿った専門教育と教養教育において成果をあげ、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出あるいは卒業演奏を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

1. 美術工芸又は音楽の分野における基本的な知識を体系的に理解し、その知識体系の意味と自己の存在を歴史や文化、社会と関連付けて理解している。
2. 知的活動や職業生活、社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力などの汎用的基礎能力を身につけている。
3. 卒業後も社会的責任を認識し、生涯を通じて自律的に学び続ける能力を身につけている。
4. 1から3までの知識や能力等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探求し、解決する能力を身につけている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、4年間を通して全学教育科目を選択履修し、全学年にわたり専門分野の実技や理論を基礎から高度な内容まで、段階的に履修することを基本に授業科目を編成します。

その上で、さまざまな技術や学問を幅広く主体的に学べるよう配慮し、学生の多様な個性を尊重しつつ、自ら感性を磨き、社会との関係を考え発信していく能力を高める教育を行います。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1. 教育の理念

沖縄県立芸術大学の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統芸術の継承と発展にとどまらず、新たな芸術創造の可能性を広げ、幅広く芸術分野で活躍できる人材を育成していきます。さらに、学生の専門的力量を高め、豊かな人間性と社会性を身につける教育を目指します。

2. 本学の求める人材

- ・本学の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎的知識・技能を備えている人
- ・芸術に強い関心があり、自ら課題を発見し解決するための思考力や判断力、表現力を備えている人
- ・多様な芸術文化に興味を持ち、主体的に人々と協働し、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していく意欲に満ちた人

3. 入学者選抜区分

- ・本学では一般選抜、学校推薦型選抜及び社会人選抜を実施します。

4. 入学者選抜試験の基本方針と実施

- ・一般選抜においては、大学及び各学部のアドミッションポリシーに基づき、大学入学共通テストの成績を利用した選抜試験と個別学力検査等（実技検査、小論文、口述試験、面接等）を実施します。なお、大学入学共通テストについて、美術工芸学部では、国語、外国語及びその他任意の1科目の合計3科目を試験科目として課します。音楽学部では、国語、外国語の合計2科目を試験科目として課します。
- ・学校推薦型選抜においては、実技検査、小論文、面接等を実施します。
- ・音楽学部の社会人選抜においては、個別学力検査等（専攻試験、小論文等）を実施します。

いずれの試験においても、本学での学習に必要な「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）」を測り評価します。

(2)-1 美術工芸学部の3つのポリシー

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、大学ディプロマ・ポリシーを基本に、加えて以下に掲げる学修成果を獲得し、最終学年における卒業作品又は卒業論文の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

1. 美術・デザイン・工芸の分野における基本的な知識を体系的に理解している。
2. 自己の創造的活動を歴史、文化、社会、自然等と関連付けて考察できる。
3. 専攻分野の専門的な技能と研究能力を身につけている。
4. 卒業後も主体的に創作、研究を継続し、それらを社会に発信する意欲と能力を備えている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、大学カリキュラム・ポリシーを基本に、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

1. 専門分野の実技と理論において、必修科目を中心とした体系的な授業科目の編成
2. 専門教育の4年間にわたる段階的履修
3. 自らの学修計画に基づき主体的に履修できる選択科目の編成
4. 大学の学修活動全体を通じて汎用的基礎能力を育成する教育の実施
5. 現代社会における美術・デザイン・工芸の役割を認識し、地域との連携を図り、社会との関係を学ぶ教育の実施

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、作品・論文・レポート・筆記試験等により行います。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育の理念

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学美術工芸学部では、沖縄の伝統に根差した美術工芸はもとより造形芸術に新たな地平を切り拓き、自ら社会的役割を担える作家、研究者、教育者などの専門家を育成するため、専門的素養と総合的知識、国際的視野を身につける教育を行います。

求める人材

美術工芸学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

1. 本学及び美術工芸学部の教育の理念をよく理解し、大学での学習に必要な基礎的な知識と技能を備えている人
2. 美術・デザイン・工芸分野における制作や学習において、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を備えている人
3. 美術・デザイン・工芸分野において作家、研究者、教育者などの専門家になる意欲のある人
4. 芸術文化の多様な背景を理解し、人とのコミュニケーションを大切に考え、社会性を認識し主体性を持って他者と協働できる人
5. 沖縄固有の芸術文化や自然等に関心があり、沖縄で学ぶことに意義を見出せる

入学者選抜試験の基本方針と実施

美術工芸学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに総合点の上位から合格者の選抜を行います。各入試区分における評価方法は以下の通りです。

1. 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語及び任意の1科目の合計3科目を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力等を測り評価します。また、個別学力検査等において、実技検査、小論文、面接（プレゼンテーションを含む）を実施し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
2. 学校推薦型選抜では、絵画・デザイン・工芸各専攻は課題作品、小論文の提出と面接（プレゼンテーションを含む）を、芸術学専攻は小論文の提出と面接、口述試験を実施し、大学での学習に必要な知識、技能、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び高等学校長からの推薦書、志願者本人の記載する資料等を活用します。

(2)-2 音楽学部の3つのポリシー

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

1. 音楽・芸能の各分野における専門的な知識と実演、創作等の技能を修得していること。
2. 大学の学修で養った汎用的基礎能力を活かし、主体的に研究を継続し、それらを社会に発信できる能力を備えていること。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽学部では、沖縄の地で育まれた伝統芸能とともに、世界の芸術音楽を体系的に教授し、将来、実演家・教育者・研究者ならびに広く音楽芸術分野に貢献できる人材の育成をめざします。

上記の人材を育成することを目標として、大学カリキュラム・ポリシーを基本に次のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

1. 少人数による教育
2. 専門教育の4年間にわたる段階的履修
3. 専門分野の実技と理論における体系的・横断的な授業科目の編成
4. 全学教育科目における芸術諸分野及び教養に関する教育
5. 地域社会との連携を図り社会との関係を学ぶ科目の提供
6. 学生の多様な関心に対応し学習できる選択科目の設定

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で授業科目の到達目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育の理念

大学の教育理念に基づき、沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄で育まれた個性ある音楽・芸能及び普遍的価値を持つ音楽芸術の体系的な研究を通じ、それらの継承発展とともに新たな芸術創造に寄与できる人材育成を目指します。そのために、専門分野における知識・技能を深めるとともに、広い視野を持って思考し、問題解決を行うために必要な教養を身につける教育を行います。

求める人材

音楽学部の教育を達成するために、次に掲げる知識・技能や能力（思考力・判断力・表現力等）、目的意識・意欲等を備えた人材を求めます。

1. 本学及び音楽学部のポリシーを十分理解し、大学での学習に自律的に取り組むことのできる人
2. 音楽学部における学習に必要な基礎的知識・技能及び課題解決のための思考力・判断力・表現力を備えている人

3. 自身の知識・技能をさらに伸ばし、将来、演奏家、作曲家、実演家、研究者又は教育者など、音楽・芸能分野における専門家となる意欲のある人
4. 芸術創造の営みについて、現代社会との関わりの中で思考し、主体性を持って多様な人々と協働する意欲のある人
5. 音楽や舞踊、沖縄における芸術文化や本学での学びに関心がある人

入学者選抜試験の基本方針と実施

音楽学部においては、学部の教育理念を踏まえ、各専攻の専門性に沿った試験を課し評価します。その際、大学入学前に学んでおくべき内容・水準について、募集要項と併せて公表する『試験曲』によって明示するものとします。また、専攻ごとに設定された多様な入試科目において、学力の3要素（「基礎的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」）を総合的に評価します。なお、入試区分及び募集枠ごとに、総合点に基づき合格者の選抜を行います。各入試区分における評価方法は以下の通りです。

1. 一般選抜では、大学入学共通テストにおいて国語、外国語の2科目を課し、大学での学習に必要な知識・技能、思考力等を測り評価します。
また、個別学力検査等において、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等）及び面接を課し、専門分野における基礎的能力、主体性及び将来性を測り評価します。本区分においては、全般的な学習能力について総合的に評価します。面接においては多面的・総合的な評価を行うために、調査書及び志願者本人の記載する資料等を活用します。
2. 学校推薦型選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、新曲視唱、副科ピアノ等）及び面接を課し、大学での学習に必要な知識、技能及び主体性等を測り評価します。本区分においては、専門分野における高い能力、調査書及び志願者本人の記載する書類等をもとに実施する面接等における評価を重視します。また、高等学校長からの推薦書を活用します。
3. 社会人選抜では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）を課し、大学での学習に必要な知識、技能、思考力及び主体性などを測り評価します。本区分では、専攻実技の習熟度及び小論文・口述試験の内容を重視し評価します。

(3) 沖縄県立芸術大学大学院3つのポリシー

(3)-1 造形芸術研究科の3つのポリシー

教育理念・目標

造形芸術研究科は、造形芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立つ芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な実態と伝統芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する比較芸術学、民族芸術文化学の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における造形芸術分野の幅広い実践活動を担う作家や研究者、芸術教育の専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

○ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科の教育理念・目的に沿った教育課程で成果をあげ、修士作品もしくは修士論文の審査および試験に合格し、所定の単位を取得した学生には修士（芸術）の学位が授与されます。学生が在学中に到達する目標は以下のとおりです。

1. より幅広い視野から芸術を理解する学識を身につける。
2. より高い専門分野における研究能力を身につける。
3. 専門分野における知識・技術を応用し、幅広い分野で活躍し、社会に発信する能力を身につける。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形芸術研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、以下を目的としたカリキュラムを編成します。

1. 学部における教養教育と専門的素養の基礎の上に立った、さらに幅広く深い技術および学識を涵養する。
2. 造形芸術についての高度な技術および知識の育成のために、自律的に研究を進める能力を養う。
3. 専門知識や技術を社会で活用し、新たな芸術創造の可能性を広げる応用能力を培う。

○アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本研究科の教育理念に基づき、次のような点を入学者選抜の判定の主眼としています。

1. 幅広い教養と造形芸術分野の専門的素養を備えているか。
2. 専門分野の研究を行うに必要な基礎的能力を備えているか。
3. 現代社会において新しい芸術創造の営みを発信していく強い目的意識、意欲を備えているか。

(3)-2 音楽芸術研究科の3つのポリシー

教育理念・目標

音楽芸術研究科は、音楽芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としています。その上で、建学の理念に則り、沖縄の伝統芸術の技法的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、ひろく東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立った芸術教育を行います。また、沖縄を中心とした南島文化の多様な芸能の実態と、伝統的芸術文化の特色を解明するために、それらを歴史的・理論的に追究する音楽構造学および民族音楽学等の観点から、汎アジア的広がりにおける東洋芸術文化の学際的な教育を行います。

これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性をもち、創造力豊かで、将来の社会における音楽芸術分野の幅広い実践活動を担う演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を図ります。

○ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科では、教育の理念に沿った高度な専門教育において成果をあげ、修士演奏、修士作品又は修士論文の提出を経て、所定の修了単位を取得した学生に対し、修士（芸術）の学位を授与します。

その際、学生が獲得しておくべき学修成果は以下のとおりです。

1. 音楽芸術の各分野における高度な専門的能力と知識を有し、東西の美意識や理論を深く理解し、豊かな表現力を備えている。
2. 音楽芸術の実践活動や専門的指導者、研究者に求められるコミュニケーション能力、論理的思考力、文章表現力などの汎用的能力を身につけている。
3. 修了後も社会的責任を認識し、音楽芸術の専門家として自立して活躍するとともに、自ら学び続ける能力を身につけている。
4. 1から3までの高度な能力や知識等を総合的に活用し、創造的な思考力をもって自らの課題を探究し、解決する能力を身につけている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科のカリキュラムは、学士課程で培った基礎的能力と音楽芸術の各分野における専門科目で培った基礎能力と知識の上に立って、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修成果を獲得できるよう、2年間を通して高度な専門分野の実技や理論を段階的に履修することを基本に、授業科目を編成します。そして、専門関連分野の技術や学問を深く主体的に学べるように配慮し、音楽家や研究者などの専門家として音楽芸術の発展に寄与するための能力を高める教育を行います。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1. 教育の理念

沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科の建学の基本的な精神は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、伝統的な音楽芸術の継承と発展にとどまらず、芸術文化に対する深い理解と感性をもちながら新たな音楽芸術創造の可能性を広げる、音楽芸能分野の専門家として活躍できる人材を育成していきます。

2. 本研究科の求める人材

本研究科の教育の理念をよく理解し、学習に必要な基礎能力、表現技術、知識および表現力を備えるとともに、現代社会に向けて新しい芸術創造の営みを発信していくために自ら課題を見出し、研究する意欲に満ちた人を求めます。

3. 入学者選抜の実施

2に掲げる能力や意欲を持つ志願者を受け入れるため、本研究科の入学試験ではアドミッションポリシーに基づき、専門試験、基礎能力試験、語学試験を実施しています。

(3)-3 音楽芸術研究科の3つのポリシー

教育理念・目標

芸術文化学研究科は、本学大学院の後期博士課程です。本学大学院は、建学の理念に基づき、伝統芸術・民族芸術の汎アジア的基盤での育成・研究をはかり、美術・音楽・芸能等諸芸術文化の国際的な比較研究の場を展開して、高度な専門知識と能力を有する指導者を育成すると同時に、とりわけ東アジア・東南アジアを結ぶ東アジア太平洋文化圏の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に資する国際的視野での総合的な芸術文化研究機関です。

○ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

芸術文化学研究科では、研究指導を受け所定の単位を修得し、博士論文等の審査及び試験に合格した学生には、博士課程の修了を認定し、博士（芸術学）の学位を授与します。

比較芸術学研究領域・民族音楽学研究領域における博士論文、芸術表現研究領域における博士論文及び研究作品・研究演奏は、1) その専門分野において高度な研究内容であること、2) 創造的、独創的な研究であること、3) その研究が国際的にも貢献できること等の観点から審査します。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術文化学研究科のカリキュラムは、芸術文化についての幅広い見識と、自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を養うような教育を行います。博士（芸術学）の学位を取得できるよう、博士論文等の完成を目標とした研究指導を中心に据え、実技と理論との結びつきを重視した本学ならではの科目である芸術表現総合比較研究Ⅰを必修とし、その他複数の領域の科目を自由に選択するように授業科目を編成しています。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1. 教育の理念

本学の基本的な理念は、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにあります。これに基づき、芸術文化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的としています。

2. 本研究科の求める人材

芸術に関する基礎的な知識を備え、自立した研究者となるための意欲と能力と展望を備えていることを求めます。

3. 入学者選抜の実施

2に掲げる人材を受け入れるため、専門的な学力試験、研究課題に関する口述試験を実施しています。

(4) 平成 25 年度大学機関別認証評価関連

《改善を要する点の抜粋》

基準 4 学生の受入

- ・大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。

基準 5 教育内容及び方法

- ・大学院課程の履修規程が整備されていない。(→平成 25 年度整備)

基準 7 施設・設備及び学生支援

- ・教育研究活動を展開する上で必要な I C T 環境が十分に整備されていない。(→令和 2 年度まで整備継続中)
- ・情報セキュリティポリシーが整備されていない。(→平成 ? 年度整備)
- ・「学生満足度調査」では、「練習室を増やしてほしい」という学生の要望が少なくなく、ピアノの調律、機材故障への対応の遅さ等の指摘も散見される状況にあり、一部の専門分野については、自主的学習環境の整備が十分に行われていない。

基準 8 教育の内部質保証システム

- ・学習、教育の質の改善・向上を図るための継続的な体制は未整備である。(→PDCA サイクルを活用した取組を継続中)

(5) 沖縄 21 世紀ビジョン基本計画【後期改訂版】(抄)

1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して

(4) 伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造

イ 文化の担い手の育成

沖縄の豊かな芸術文化の伝統を受け継ぎ、新しい創造的芸術文化の形成及び発展を担う人材、さらには国際的に活躍できる人材を輩出するため、幅広い芸術を専門的に学ぶ教育機関である県立芸術大学の教育機能の充実に取り組みます。

(5) 文化産業の戦略的な創出・育成

イ 伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興

産地と試験研究機関及び県立芸術大学等との有機的な連携を図り、工芸の要素・資源や技術・技法を活用した新たな工芸品の開発及び二次加工製品の製造、異業種・新技術との連携融合による高付加価値化に取り組むとともに、デザイン性や感性価値を重視した製品開発等を促進します。

5 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して

(4) 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築

ウ 優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進

県立芸術大学においては、沖縄の豊かな芸術文化の伝統を受け継ぎ、新しい創造的芸術文化の形成及び発展を担う人材、さらには国際的に活躍できる人材等を育成するため、教育機能の充実を図ります。

⑥ 沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】(抄)

○計画期間：平成 29 年度～平成 33 年度

11 社会の信頼に応える学士課程教育の推進〔学士課程教育の充実〕(県立大学)

我が国では社会の成熟を背景に、大学進学率の増加、大学設置基準の大綱化による大学数の増加や多様化が進み、その中で大学には学士課程に見合う教育成果が問われている。学士課程教育を地域社会から付託された県立大学の責務の第一は、地域社会の発展に貢献しうる人材の育成である。県立大学では、大学に寄せる社会の信頼に応える学士課程教育を推進する。

県立芸術大学は、建学の理念に基づき、美術・工芸・音楽・芸能の芸術分野における有為な人材育成、沖縄における伝統芸能の継承と新たな芸術の創造に資する人材養成を成すことにある。そして、開学以来、社会のニーズに応じた質の高い研究、教育理論と指導システムの確立をもってその教育拠点となり、本県の芸術文化振興の負託に応えるとともに、産学共同事業や地域貢献を通じてその研究活動の成果を広く社会還元する使命を担ってきた。人口が減少し少子化が進行する社会において、高大接続改革という新しい政策への対応を含め急激な変化の中で、改めて「知の拠点」としての存在価値を問い直し、学内外の環境変化に対応して組織改革を含む教育内容の早急な見直しが必要である。また、国公立五芸術大学の中でも独自の文化を育み、アジア地域と通底する文化的・地理的存在をもつ本学の国際的な発信力や対外交流活動をさらに強く推進していく。

(1) 教育内容の充実

① 基本的な考え方

県立芸術大学の学士課程教育においては、人間形成に不可欠な物事を深く捉える「心の眼」の豊かさを育み、モノづくりや演奏、舞踊など多彩な身体表現を通じて、共感する力を含めた幅の広いコミュニケーション能力を養う教育内容をさらに研究し推し進める。学生の学習モチベーション、教員の指導力を向上させるためのFD・SD活動を組織的に取り組む。さらにシラバスの検証と検討を含め、学部における自己点検評価を年次ごとに明確化する。

学年ごとの教育目標と意義を今一度見直し、基礎教育の検討、全学教育科目の見直しと新設、ニーズに合った専門科目の有効な開発に努める。

また、地域連携した専門授業の開発、アートマネジメントやキャリア教育の拡

充、国際交流の研究活動の応用など、社会連携した大学の教育内容の充実を図る必要がある。

② 主要課題

ア アドミッション・ポリシーに則り、本学で学ぶことに高い意義を見出し、将来性のある入学生を獲得するために、入試における幅広い設定と大学広報の見直しが必要である。

イ 全学教育科目は社会性や人間性の豊かな素養を育むだけでなく、本学の芸術的修練、専門教育の礎であり、専門教育との有機的な連携をさらに模索し、社会のニーズに応える幅広い全学教育科目を構築するため、全学教育センター機能の充実強化を図る必要がある。

ウ 芸術基礎教育と専門教育について、美術工芸学部では造形基礎等の本来の芸術基礎科目と専門教育における基礎科目との関連性、有効性を見直す必要がある。

エ 芸術系大学の社会的存在が見直される中、卒業後の就職率を含め、養成された人材を評価する指標、学部教育の充実を図るため、芸術専門教育の成果を評価する指標を明確にする必要がある。

③ 施策の方向

(県立芸術大学)

ア 志願者の減少傾向を改善するため、入試において全学的な分離分割方式による二次試験の実施など、定員の充足率の向上を図る。さらに全学的な学生の修学支援、学生生活の改善を図る。大学の活動成果をホームページで公表するなど、広報活動の充実強化に取り組む。

イ 全学教育センターを通じて、資格課程を含め総合教育科目並びに全学教育科目の見直しを行う。

ウ 本来の芸術基礎教育と専門基礎教育の関連性と有効性の両面を専攻全体で確認するとともに、シラバスを充実させ、学生の修学のモチベーションを高める。

エ 卒業生に関し、芸術文化の振興に貢献している具体例及び産業界や教育界に輩出している情報を収集し、周知を図る。

(2) 教育実施体制の充実

①基本的な考え方

県立芸術大学の学士課程教育の質の向上は、教員の教育指導能力、教育研究能力、教育環境の整備等の複合力によって反映され、教員相互の組織体制によってより実質的な効果が発揮できる。

変動の激しい社会状況の中にあっても、芸術大学の主な教育目的は優れた芸

術家、研究者、教育者を育てることにある。教員の教育研究能力をさらに高めるには、大学自身が、中・長期計画の下、教育体制としての学科再編及び適正な人事配置、運営体制の組織的見直しを行う必要がある。

②主要課題

ア 県立芸術大学は、美術工芸学部において分散したキャンパスの下で授業を行っているが、キャンパス総合移転計画を含めた中・長期将来計画の下、学科再編及び適正な人員再配置を行い、組織力の改善、教員の授業持ちコマ数の格差解消等、適正な教育環境整備に努める必要がある。

イ 大学教育・研究成果の社会還元を促進するため、地域に根ざした地域貢献、地域連携授業、産官学連携プロジェクト等のさらなる開発を行う必要がある。

ウ 卒業する学生の就職率の向上、企画力や実践経験を生かした人材育成を行うため、共通と専門におけるキャリア教育の充実、アートマネジメントなどのカリキュラムを拡充する必要がある。

エ 国内外の芸術系大学との共同授業の実施、海外派遣留学、国際交流事業を通じた共同研究をさらに促進し、学内の教育環境を活性化し、国際的な芸術文化活動に寄与する必要がある。

③施策の方向

ア 教員の持ちコマ数の格差解消に努め、授業を複数兼務する教員の負担を軽減する。本学に相応しいカリキュラムの開発を行う。また、FD・SD活動を組織的に取り組む。

イ 大学における教育・研究成果を、地域（産地を含めた）への社会還元として、地域貢献・連携事業、並びに産官学連携プロジェクトを積極的に実施する。また、人材育成を伴った成果を大学での教育・研究へ活用する循環型の地域連携に取り組む。

ウ 全学教育科目と専門教育におけるキャリア教育の充実を図り、卒業後を見据えた人材育成を行う。また、アートマネジメントに関する科目を拡充する。

エ 国内外の芸術系大学と単位互換を含めた共同授業を実施し、学生数の少ない本学の教育環境の活性化を図る。さらに国際交流を推進するため、姉妹校の修学内容等の点検を行い、私費留学生の受入れを含め留学制度を拡充させる。

12 大学院教育の強化〔大学院教育の強化〕（県立大学）

沖縄県立芸術大学は、芸術の各分野における高度な専門的能力を養成することを目的としている。その上で、沖縄の伝統芸術の技術的特徴や、それらを生成した歴史的・文化的・風土的特性等にも配慮した高度な実技教育を行うとともに、芸術の普遍性の見地から、広く東西の美意識に関わる哲学的・美学的・文化的反省に立った芸術教育を行っている。これらの教育活動を通じて、芸術文化に対する深い理解と感性を

もち、創造力豊かで、将来の社会における芸術分野の幅広い実践活動を担う制作者、演奏家や研究者、芸術教育の場における専門的指導者となり得る人材の育成を目指した大学院教育の充実を図る必要がある。

(1)教育内容の充実

①基本的な考え方

芸術大学修士課程においては、芸術文化に対する深い理解と感性をもつ人材を育成するために、専門領域の教育の強化とともに、基礎的素養を涵養する教育の充実を推進する。博士課程においては、高度に専門的な芸術研究をより一層推進するために、実践面と理論面との協同による研究を重視した教育内容の充実を図る。両課程を通じて、国際交流を推進し、芸術創造および芸術研究の分野で世界的に活躍しうる高度に専門的な人材を育成する。

②主要課題

ア 修士課程においては、教育課程の体系化、指導計画の明確化により、教育の質と客観性を高める必要がある。

イ 博士課程においては学位審査基準の整備及び実技系博士における学位論文及び作品の審査基準の明確化が必要である。

ウ 教育の国際化を促進するため、海外との交流の機会を増やし、世界に発信する指導的な人材を増やしていく必要がある。

③施策の方向

ア 大学院の教育課程において、専門分野の教育と、基礎となる素養を涵養する教育とを体系的に配置したカリキュラムを新たに構築するとともに、研究計画書に基づいた教育の推進と成果の事後検証に取り組む。

イ 海外との協定締結校を増やし、学生・教員の交流を促進する。

(2)教育実施体制の充実

①基本的な考え方

県立芸術大学においては、大学院教育において高度に専門的な教育を推進するために、教育効果のあがる研究室体制を築く必要があり、さらに他大学との交流によって、最先端の教育が可能な環境を整備する必要がある。

②主要課題

ア 大学院の各専攻の入学定員が小さいため、一部の専攻では入学希望者と専攻定員との間でアンバランスを生じている。これを解消するために、入学定員を見直す必要がある。

イ 専門的な教育をさらに充実させるために、海外の姉妹校の他、国内芸術系大学、県内の大学との教育交流を推進する必要がある。

ウ 博士課程への実技領域導入に伴い、修士課程においても、博士課程への進学

を見通したカリキュラムを構築する必要がある。

③施策の方向

- ア 大学院への入学希望者と専攻定員との間のアンバランスを解消するため、志願倍率の高い専攻においては定員を増員する。
- イ 海外の姉妹校との交流を拡充する他、国内芸術系大学との単位互換を含む共同交流授業の開発を推進するとともに、県内大学とのコンソーシアムを通じた単位互換等の協同活動を推進する。
- ウ 修士課程の実技系専攻において、学術的研究の基礎となる演習科目を創設する。

13 大学の教育研究の推進と基盤の強化〔教育研究の推進と基盤の強化〕（県立大学）

県立芸術大学の果たす役割は、建学の理念に基づいた美術、工芸、音楽、芸能の芸術分野における有為な人材を育成することである。その中で本学の特色となっている沖縄の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造及び時代の要請に対応できる人材の養成は重要である。

また、質の高い研究、教育理論に基づく教育研究システムを確立し、本県の芸術文化の振興を図るとともに、芸術文化の国際交流を一層充実する必要がある。

世界的な芸術文化を修得し、国際的レベルの芸術家の育成を図るとともに、伝統芸術文化の地域的個性を生かした教育研究に努め、併せてアジア地域における芸術文化との融合、調和を基本とした内発的多様性を探求することによって伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に取り組む必要がある。そのためには、個々の教員の専門性の研究をさらに深化させ、県立芸術大学の役割の実践、目標達成に向けた教育研究の推進と基盤を強化する必要がある。

(1)教育研究の充実

①基本的な考え方

県立芸術大学においては、本学の特色である沖縄における伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に資する人材の育成が重要であり、質の高い研究、教育システムを確立し、さらに国際的に活躍できる人材を輩出するための教育研究の推進を図る。

②主要課題

- ア 教員個々の研究活動の一層の充実を図るため、プロジェクト研究の推進や教育研究費の有効活用、外部資金獲得などについて組織的な取組を推進する必要がある。
- イ 本学の芸術力を国際的水準に高めるため国内外のさまざまな研究機関との共同研究を行い、教育研究機関として機能向上を図る必要がある。

ウ 地域に開かれ、貢献する大学として地域の芸術教育の振興に一層努める必要がある。

③施策の方法

ア プロジェクト研究の推進や教育研究費の有効活用、外部資金獲得などについて組織的な取組を推進する。

イ 姉妹校の拡大、教育研究の交流及び国内外の研究者との共同研究を推進する。

ウ 地域の芸術分野の団体及び指導者、実践者との交流により、地域の伝統芸術振興に密着した取組を推進する。

(2)教育研究施設・設備の整備の推進

①基本的な考え方

県立芸術大学は、開学から30年にわたり芸術にかかる教育研究水準の向上において首里当蔵キャンパス、首里金城キャンパスの教育研究施設の整備を図り、芸術分野の総合大学として少人数授業による密度の高い独自の教育を行ってきた。

その間に施設の老朽化が進行したため、美術工芸学部の一部を首里崎山キャンパスに新築移転した。教育研究の充実、国内外との交流、情報発信を促進させるための教育施設・設備の整備についてさらに推進する。

②主要課題

ア 県立芸術大学のICT環境を整備し、情報発信を推進する必要がある。

イ 県外、県内の遠隔地からの入学者のための学生寮の整備並びに留学生、共同研究者の宿泊施設を整備する必要がある。

ウ 附属図書・芸術資料館に関しては、機能の充実を図り運用体制を整備する。

③施策の方向

ア 本学の特色である芸術文化活動の情報発信、教育情報のリアルタイムの提供のためのホームページの充実化、キャンパス分離に伴う学生サービスの維持向上のためのオンラインシステムの推進を図る。

イ 首里当蔵と首里崎山に分かれたキャンパスの再統合について、県の財政的負担や両キャンパスの立地条件等を勘案しながら検討していく。

ウ 附属図書・芸術資料館の充実並びに専任の司書及び学芸員を配置し、利用者のニーズに対応した体制を整備する。

14 大学による社会貢献の推進〔社会貢献の推進〕（県立大学）

少子高齢化による超高齢社会に向かい、誰もが生涯学習を通して生涯現役で社会に貢献することを目指している。

県立芸術大学においては、建学の理念、設置の基本構想に基づき、開かれた大学として、その実践成果を広く県民に還元し、沖縄の地域文化の活性化に貢献するとともに、大学と地域の相互交流を目指している。

(1) 地域振興に貢献する取組の充実

①基本的な考え方

県立芸術大学において、美術工芸学部では、サマースクール・公開講座等の充実を図り、各専攻においても、地域貢献、地域連携、産官学連携を目的とした取組を行う必要がある。音楽学部では、演奏会や出張演奏を広く県民に鑑賞の機会を提供する取組として組織的に行う必要がある。

附属研究所では、毎年実施している公開講座の一層の拡充を図るとともに、沖縄県立芸術大学移動大学を充実させ、社会人向け生涯教育のプログラムの開発に取り組む。

②主要課題

ア 美術工芸学部、音楽学部で行っている公開講座・サマースクール等の充実を図る必要がある。

イ 学生参加による地域貢献を授業として積極的に行う必要がある。

ウ 小・中・高等学校教育と連携した地域貢献活動を充実させる必要がある。

エ 附属研究所が行っている公開講座・文化講座、移動大学の充実を図る必要がある。

オ 産官学連携事業や市町村との連携事業などをより充実していく必要がある。

③施策の方向

ア 美術工芸学部、音楽学部で行う公開講座・サマースクール等の内容を点検し、一層の充実を図る。

イ 学生参加による地域貢献授業の充実を図る。

ウ 小・中・高等学校と連携し、出前授業、レクチャーコンサート等の充実を図る。

エ 生涯学習推進体制と県民カレッジと連携し、社会人向け沖縄文化の講義の単位化を検討する。また、移動大学を発展的に拡大した沖縄文化総合体験学習プログラム等の検討を行う。

オ 産官学連携プロジェクト、市町村との連携事業を積極的に取り組む。

(7) 沖縄県立芸術大学基本計画

基本計画策定の意義

沖縄県立芸術大学は、昭和61年の開学から今日までに3,300余名の人材を輩出し、沖縄の豊かな芸術文化の伝統を受け継ぎ、新しい創造的芸術文化の形成及び発展を担ってきた。その間、教育研究で蓄積された資産を広く県民に還元すべく公開講座・文化講座を開催し、また、県民に芸術鑑賞の機会を提供するなど地域社会に貢献してきたところである。本学が平成28年に開学30周年を迎えるにあたり、少子化など大学を取り巻く社会環境の変化に対応していくためには、今一度建学の精神に立ち返り、あるべき姿、自らの将来像を確認する必要がある。

建学の基本的な精神は、沖縄文化が創り上げてきた個性の美と人類普遍の美を追究することにある。そのためには地域文化の個性を明らかにし、その特性を生かすことでなければならない。そして、伝統的芸術文化とその関連分野について、芸術普遍の見地から研究と教育を行い、今後も沖縄の芸術文化の継承と創造発展に貢献し、それらを担う人材と指導者の育成を図るとともに、太平洋文化圏の中心として汎アジア的芸術文化に特色をおいた研究教育機関たる芸術大学としての存在意義を、学内はもとより県民と共有する必要があるものとする。ここに県立大学として基本計画を策定する意義がある。

基本計画は、「沖縄21世紀ビジョン」、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」、「沖縄県教育振興基本計画」及び「平成25年度実施大学機関別認証評価」を踏まえ、本学の役割、使命、課題への対応について策定していくものであり、次に掲げる事項を基本目標とする。

- 1 学生収容定員の充足
- 2 大学の内部質保証システムの構築
- 3 教育の質の向上
- 4 国際交流の活性化
- 5 社会貢献・社会連携の充実強化
- 6 大学運営の改善

計画の期間

平成28年度から平成33年度までの6年間とする。

第1 学生収容定員の充足に関する取組

- (1) 学部、大学院において定員割れ状態にある専攻等の現状を検証し具体的対策を早急に講ずる。
- (2) 志願者の減少を改善するため、現行入試（分離分割方式、推薦入試、社会人入試）

を検証し、見直しを含めて再検討する。

- (3) 社会人入学を促進するため、大学院において長期履修修学生制度導入を検討する。
- (4) 多様なメディアを活用して県立芸大の潜在的な能力を社会に発信するなど広報活動の充実強化を行う。
- (5) 本学の特色である芸術文化活動の情報発信、教育情報のリアルタイムの提供のために、ホームページを充実するとともに運用の改善を図る。

第2 大学の内部質保証システムの構築

- (1) 内部質保証の実施体制を強化し、継続的な自己点検、評価による大学の諸活動の改善を図る。

第3 教育の質の向上に関する取組

- (1) 学部教育及び大学院教育の質向上
 - ア 本学に相応しいカリキュラムの開発を行う。
 - イ 教員の授業担当時間の実態を把握し、適正な標準持ちコマ数を定め、教員間の負担の格差を解消する。
 - ウ 全学教育の一層の充実を図る。
 - エ 修士課程の実技系専攻において、学術的研究の基礎となる演習科目の充実を図る。
 - オ 修士課程において、国内芸術系大学との単位互換を含む共同交流授業の開発を推進する。
 - カ 学習成果の水準について継続的に維持向上を図る。
- (2) 研究教育活動の推進
 - ア 研究活動の遂行上のコンプライアンス強化を図る。
 - イ 研究計画書に基づいた研究の推進と、研究成果及び成果の教育への反映について、その事後検証に取り組む。
 - ウ 公的研究費の適正な管理運用を行う。
 - エ プロジェクト研究の推進や研究教育費の有効活用、外部資金獲得などについて組織的な取組を推進する。
 - オ 伝統的芸術分野及び関連分野の研究と教育を推進する。
 - カ 産地及び試験研究機関との有機的な連携を図り、伝統工芸の研究教育体制を強化する。
- (3) 学生への支援強化
 - ア 教養教育と専門教育におけるキャリア教育の充実を図り、卒業後を見据えた人

材育成を行う。

イ 芸術文化の分野に特化・関連した企業や職業にターゲットを絞った求人開拓を行う。

ウ 学生の「職業観」の構築と「生きる力」を涵養する。

エ 全学的な学生の就学及び学生生活支援の改善を図る。

(4) 教育研究施設・設備の充実強化

ア 施設・設備の点検を継続実施し、良好な教育環境を確保する。

イ 首里当蔵、首里金城、首里崎山の3キャンパスの効率的な活用を検討する。

ウ 附属図書・芸術資料館の活性化に資するために、館運営の改善を図り、利用者のニーズに対応した体制を整備する。

第4 国際交流の活性化に関する取組

(1) 沖縄の地理的特性をもとに太平洋文化圏における多様な芸術文化とのかかわりを明らかにするため国際交流を積極的に推進する。

(2) 汎アジア的芸術に特色をおいたユニークな研究教育機関を念頭に、アジア・太平洋の大学、学術関係者との連携を強化し、姉妹校の拡大、教育研究の交流及び国内外の研究者との共同研究を推進する。

(3) 国際交流を充実させるため、姉妹校の修学内容等の点検を行い、私費留学生の受け入れを含め留学制度を拡充させる。

第5 社会貢献・社会連携の充実強化に関する取組

(1) 社会連携室を通して地域社会への教育成果の還元を図るとともに一元的に地域貢献活動を把握し、県民にアピールする。

(2) 地域の芸術分野の団体及び指導者、実践者との交流により、地域の伝統芸術振興に資する取組を推進する。

第6 大学運営に関する取組

(1) 事務の効率化及び合理化を推進する。

(2) 評議会、委員会等のあり方を見直し、効率的な運営を図る。

(3) FD・SD活動を組織的に取り組む。

(4) 財政健全化に向けた取組を推進する。

(5) マネジメント（経営・組織等の管理）力の向上を図る。